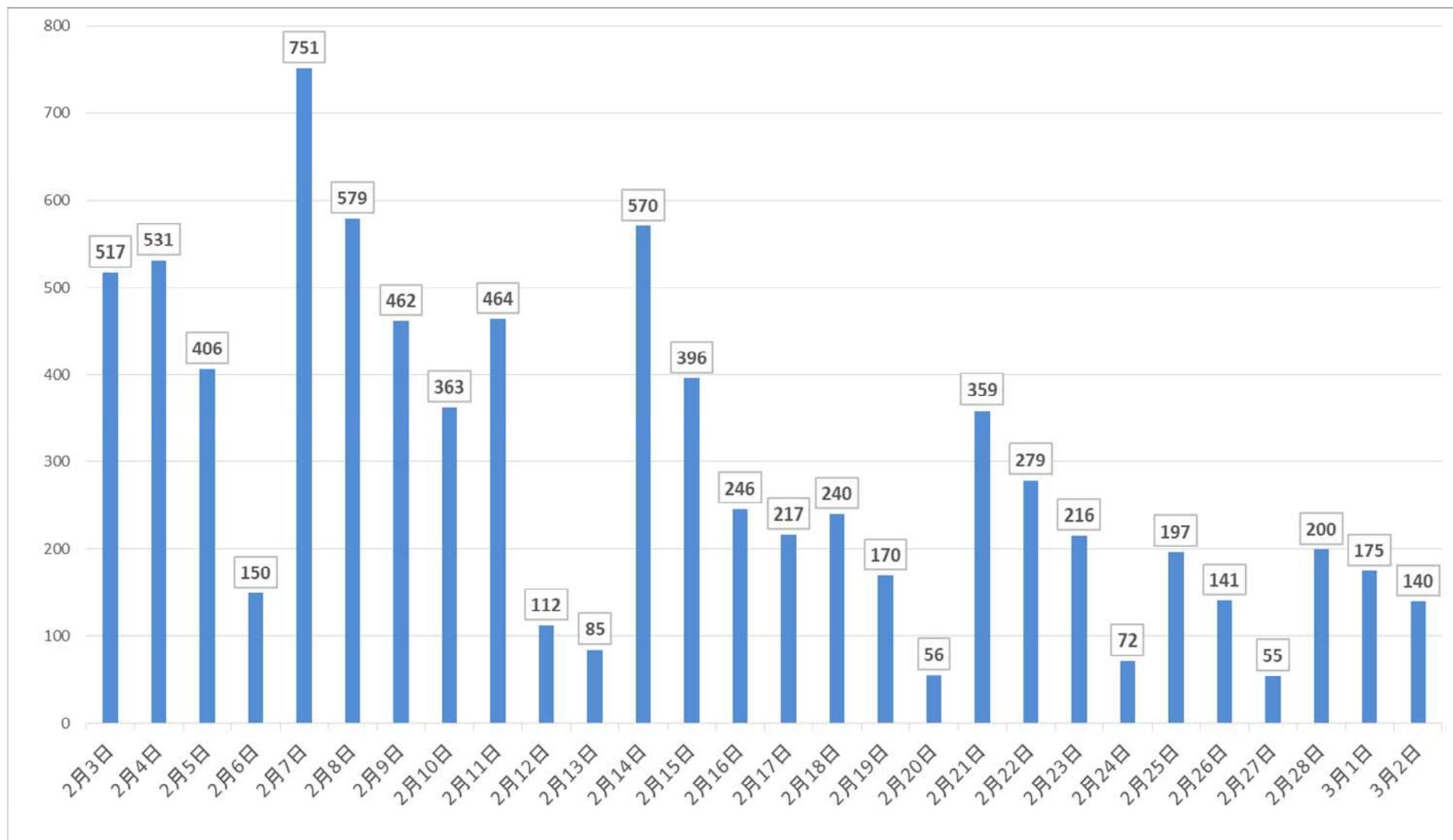


新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

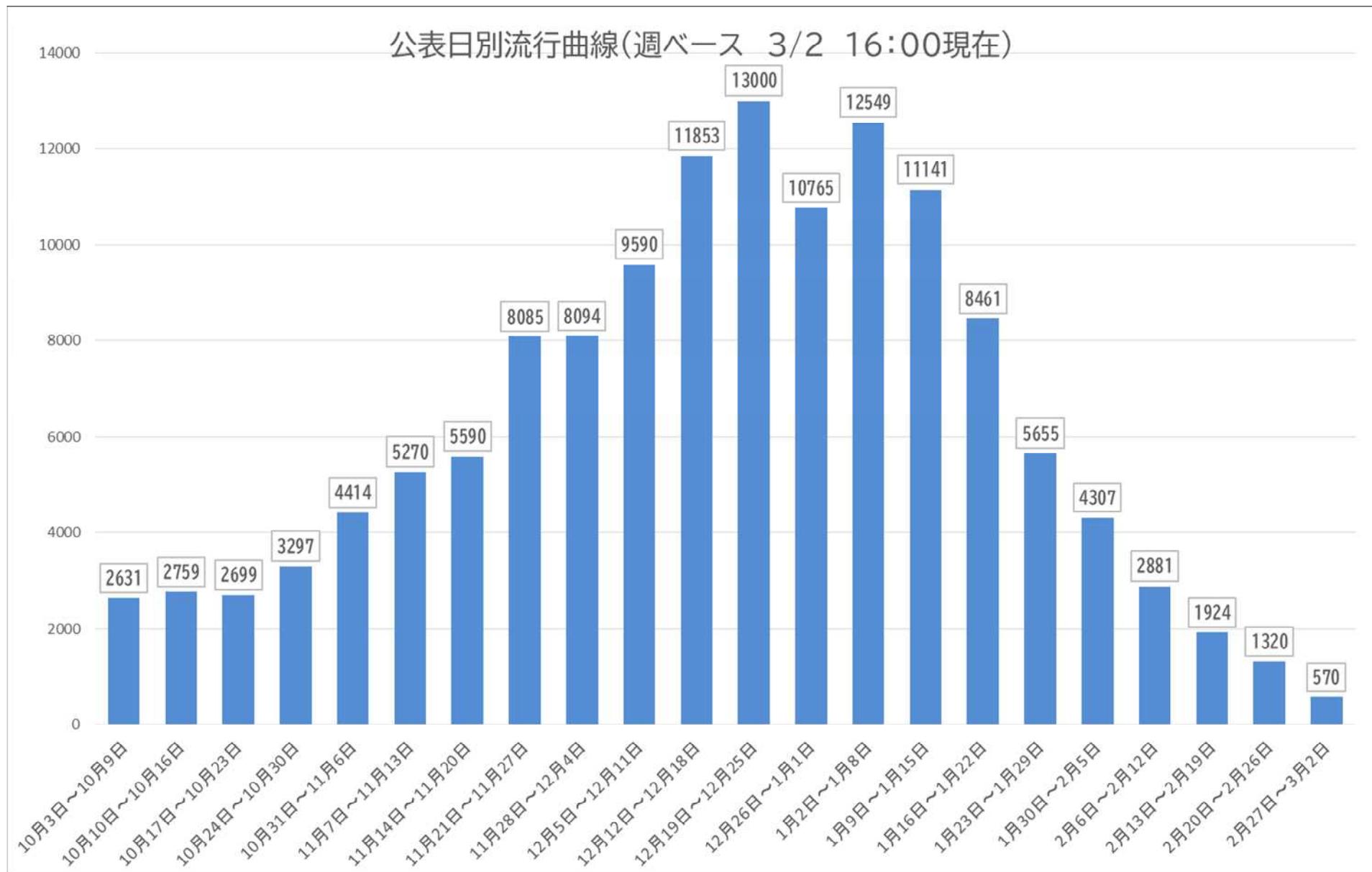
県内の感染動向について(3/2現在)

1)①流行曲線(公表日別)

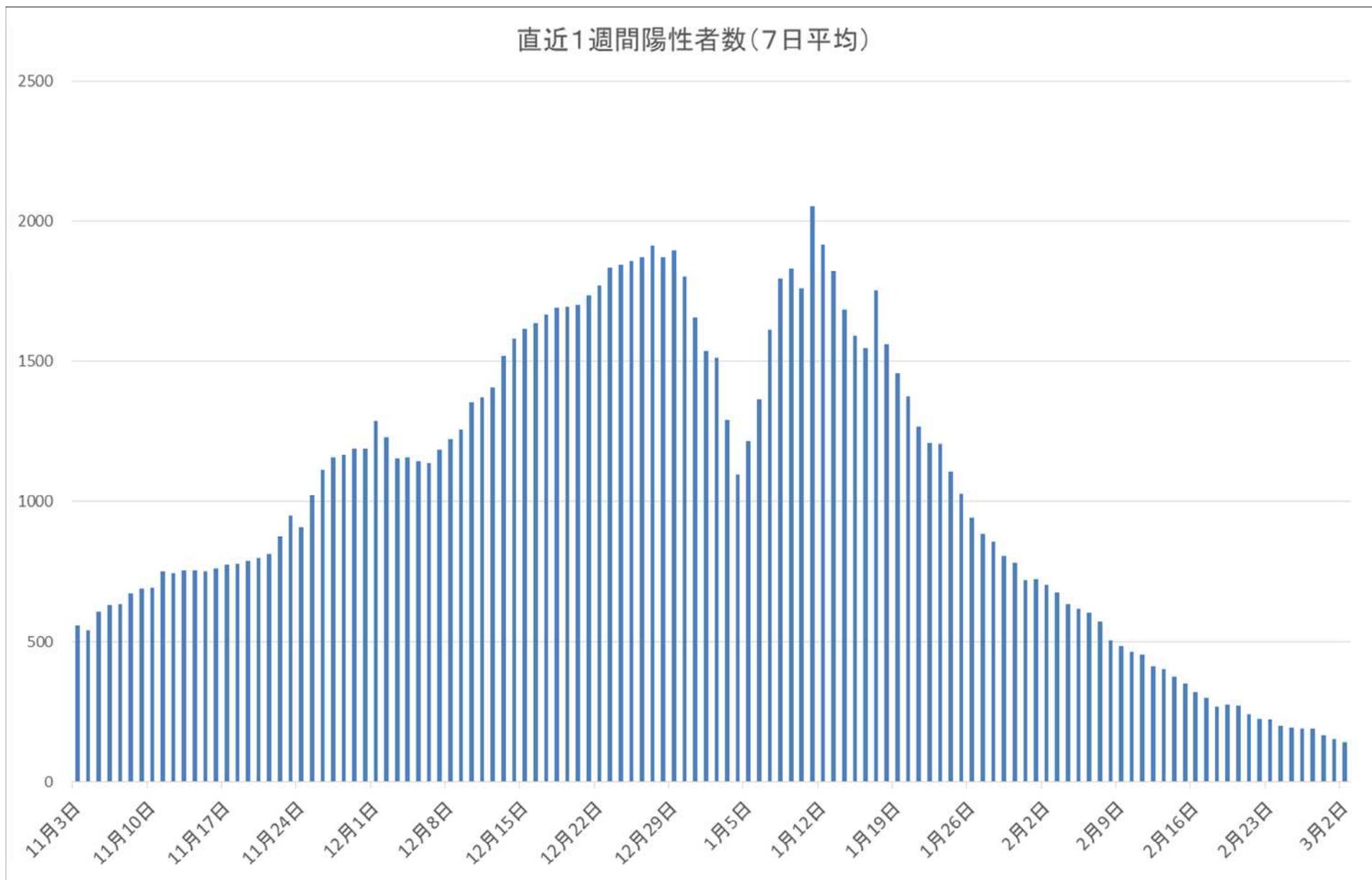


流行曲線：感染症の流行を経時的に観察し、流行の特徴を把握することができます。

1)②流行曲線(週ベース)

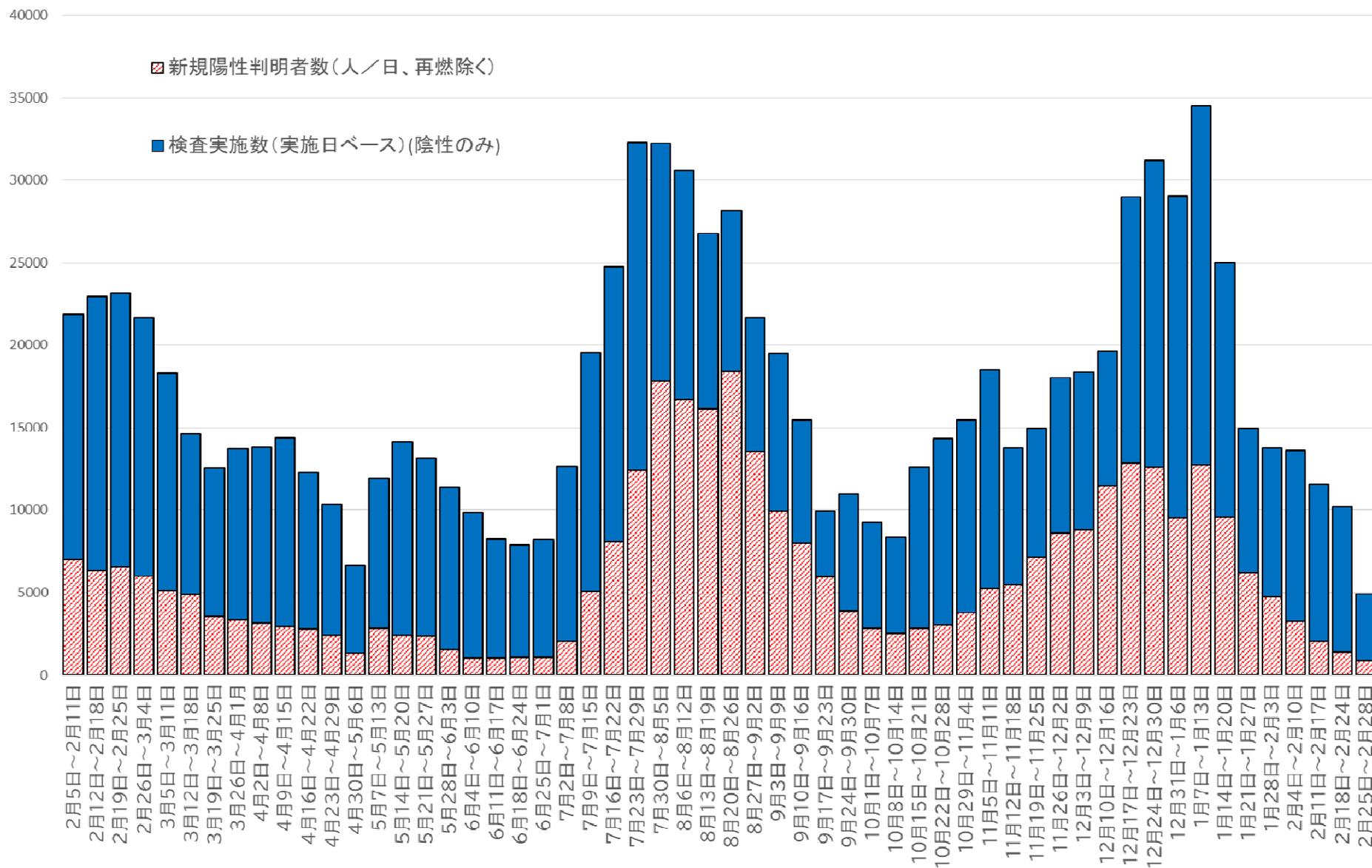


1)③流行曲線(7日間移動平均)



※集団感染発生や曜日による数値のばらつきにより、日々の結果が変動するため、こうしたばらつきを平準化し全体の傾向を見る趣旨から、過去7日間の移動平均値をグラフで示したものです。

2)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



3)陽性率(7日間移動平均)



- 陽性率の7日間の移動平均（その日までの7日間の平均）を見ると、2月28日現在の陽性率は13.3%でした。

4) 県内の病床数および宿泊療養施設の状況

病床数	入院者数			空床数
		県内発生	その他	
418	115	107	8	303

宿泊療養 部屋数	療養者数			その他	空数
		県内発生	県外発生		
518	6	6	0	14	498

5) 県内の陽性者発生状況

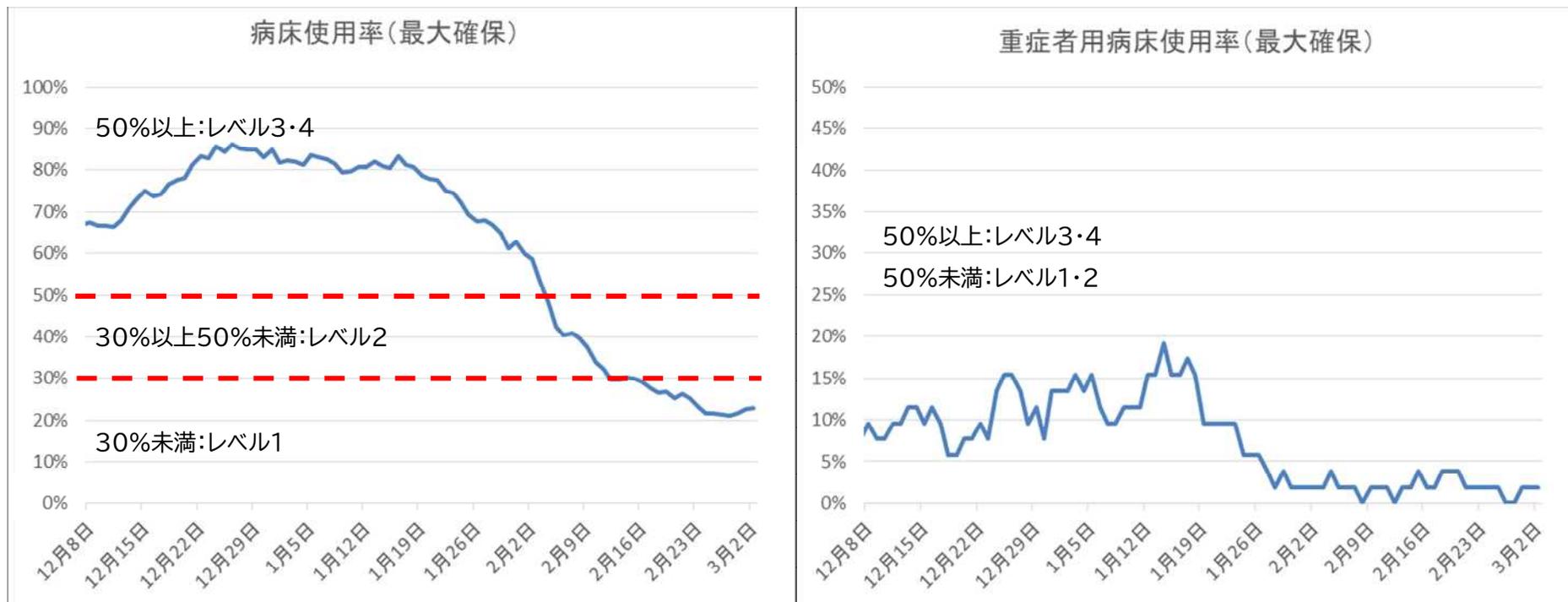
陽性者累計	入院患者 (県内発生)				死亡
		軽症	中等症	重症	
371,296	107	82	24	1	666

重症：ICUに入室または人工呼吸器・ECMO(体外式膜型人工肺)が必要
 中等症：酸素投与が必要

6) 各指標の状況

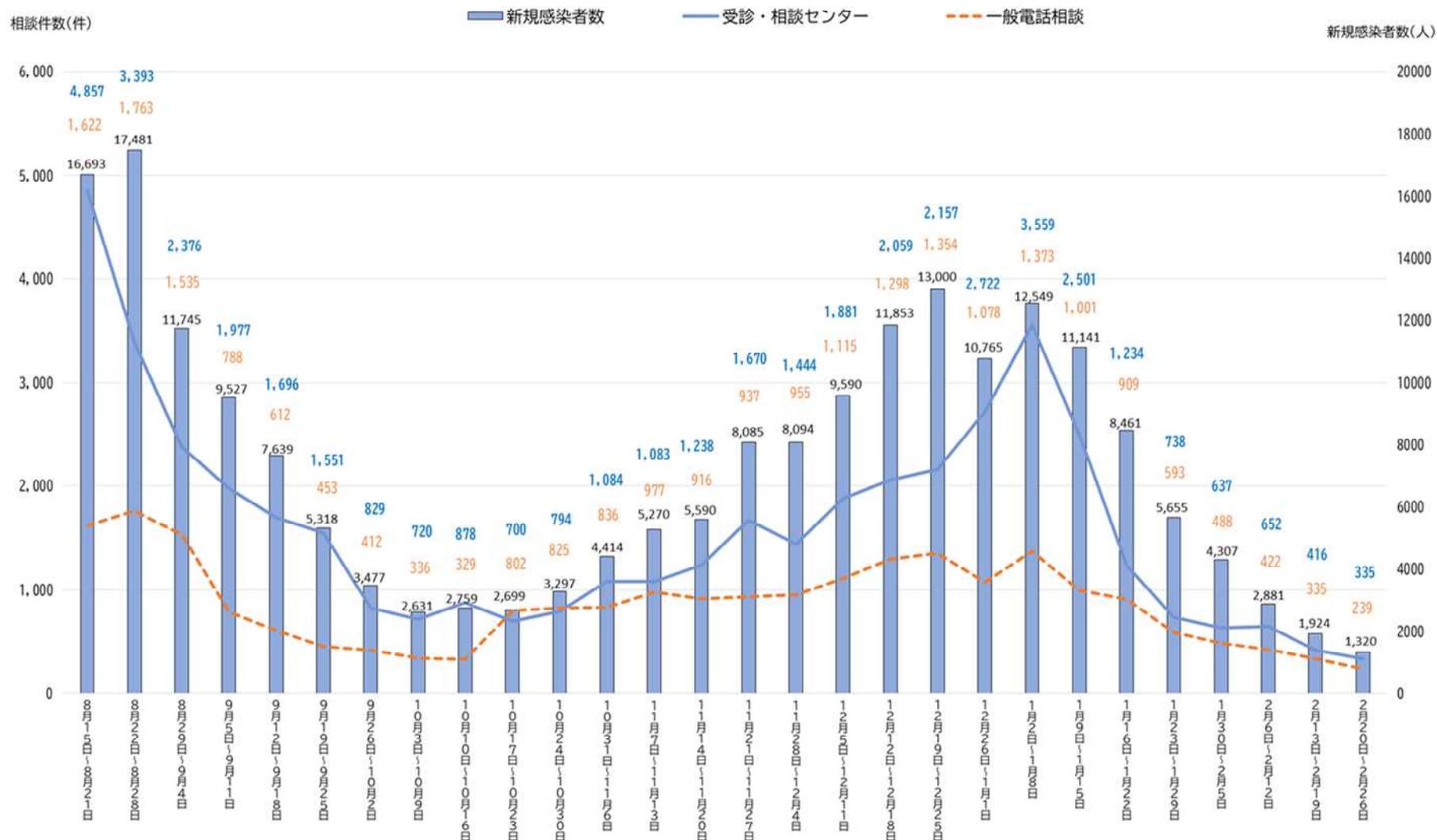
現時点の確保病床の占有率※1	27.5%	※1 現時点の確保病床の数、418床に対する割合
最大確保病床の占有率(レベル判断指標)※2	23.0%	※2 最大確保病床数(ピーク時に確保予定である病床数)、501床に対する割合
うち重症者用病床の最大確保病床の占有率(レベル判断指標)※3	1.9%	※3 最大確保病床数(ピーク時に確保予定である病床数)、52床に対する割合
直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数	69.3人	
直近1週間と先週1週間の陽性者数の比較※4	少ない	※4 直近一週間の陽性者数が先週一週間に比較して多いか少ないか記載
直近1週間のPCR等陽性率※5	13.3%	
PCR等検査数(直近1週間分)	8,725件	※5 報告受領件数(抗原検査を含む)に基づく陽性率(自己検査・無料検査は含まない。)
検査数累計(PCRおよび抗原検査の総数)	1,353,992件	

7)その他の県内の感染動向



8)相談体制について

相談件数と新規感染者数（週計）



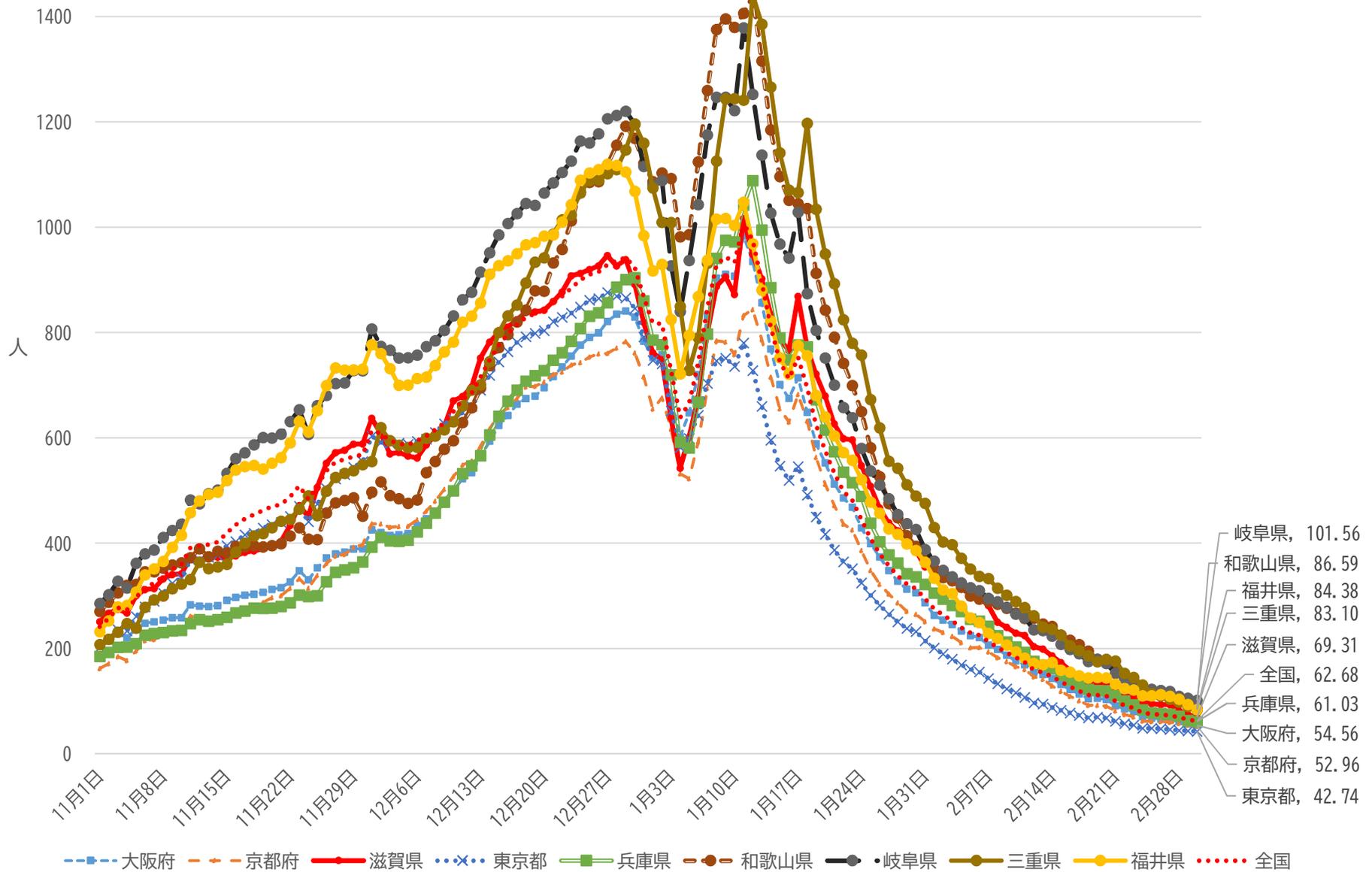
9)2022年7月以降に発生したクラスターの状況

発生年月	発生件数
2022年7月	71
2022年8月	99
2022年9月	76
2022年10月	31
2022年11月	76
2022年12月	134
2023年1月	116
2023年2月	39
2023年3月	1
合計	643

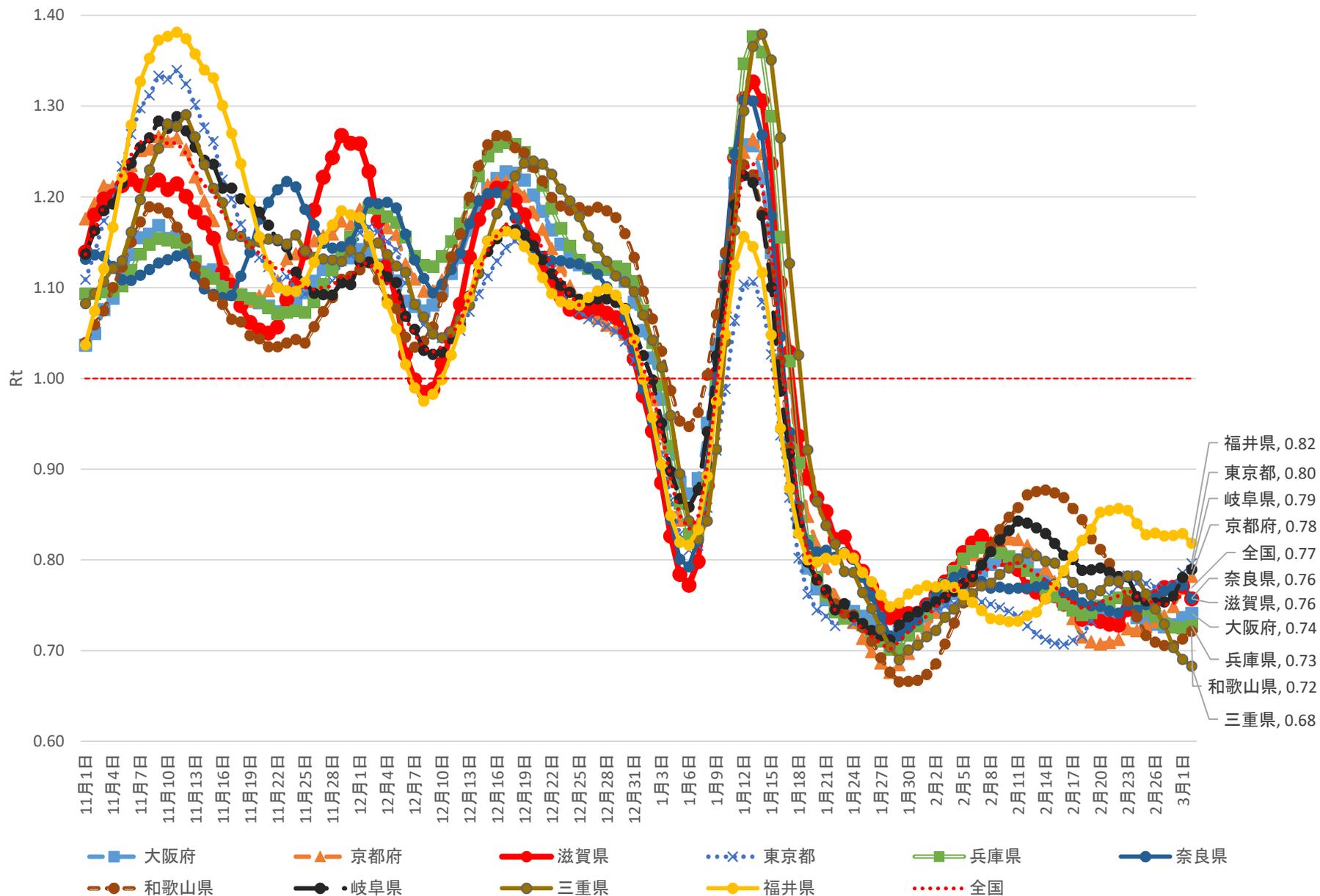
直近1週間のクラスター発生状況		
発生施設	陽性者数(人)	公表日
介護関連事業所495	7	2月24日
障害福祉関連事業所78	6	2月25日
介護関連事業所496	19	2月26日
介護関連事業所497	6	3月1日

	第7波(7/1~10/31)	第8波(11/1~3/2)
発生施設	発生件数	発生件数
飲食店	0	0
介護関連事業所	164	246
学校	16	12
医療機関	41	50
事業所	1	1
保育関連施設	26	29
障害福祉関連事業所	28	28
会食	1	0
文化・スポーツ活動	0	0
合計	277	366

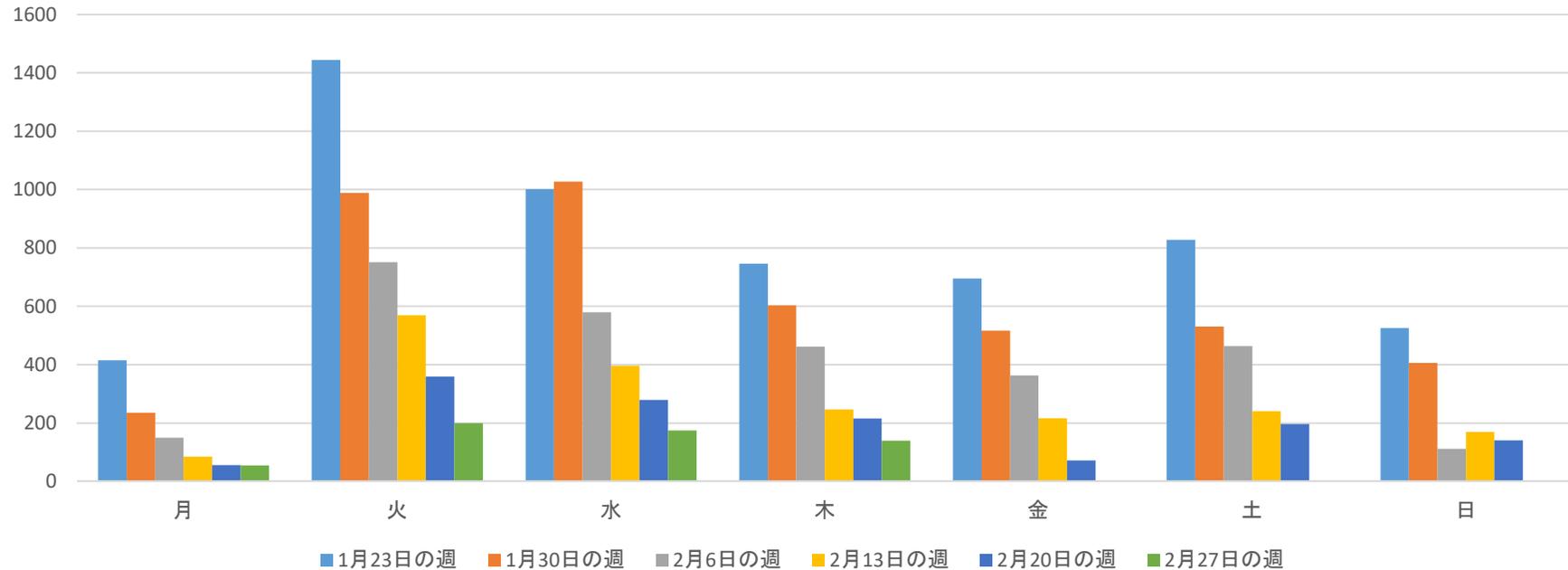
近隣府県の10万人当たりの新規感染者数の推移(直近7日間の累計患者数)(R4.11/1-R5.3/2)



実効再生産数の推移(7日間移動平均) (R4.11/1-R5.3/2)



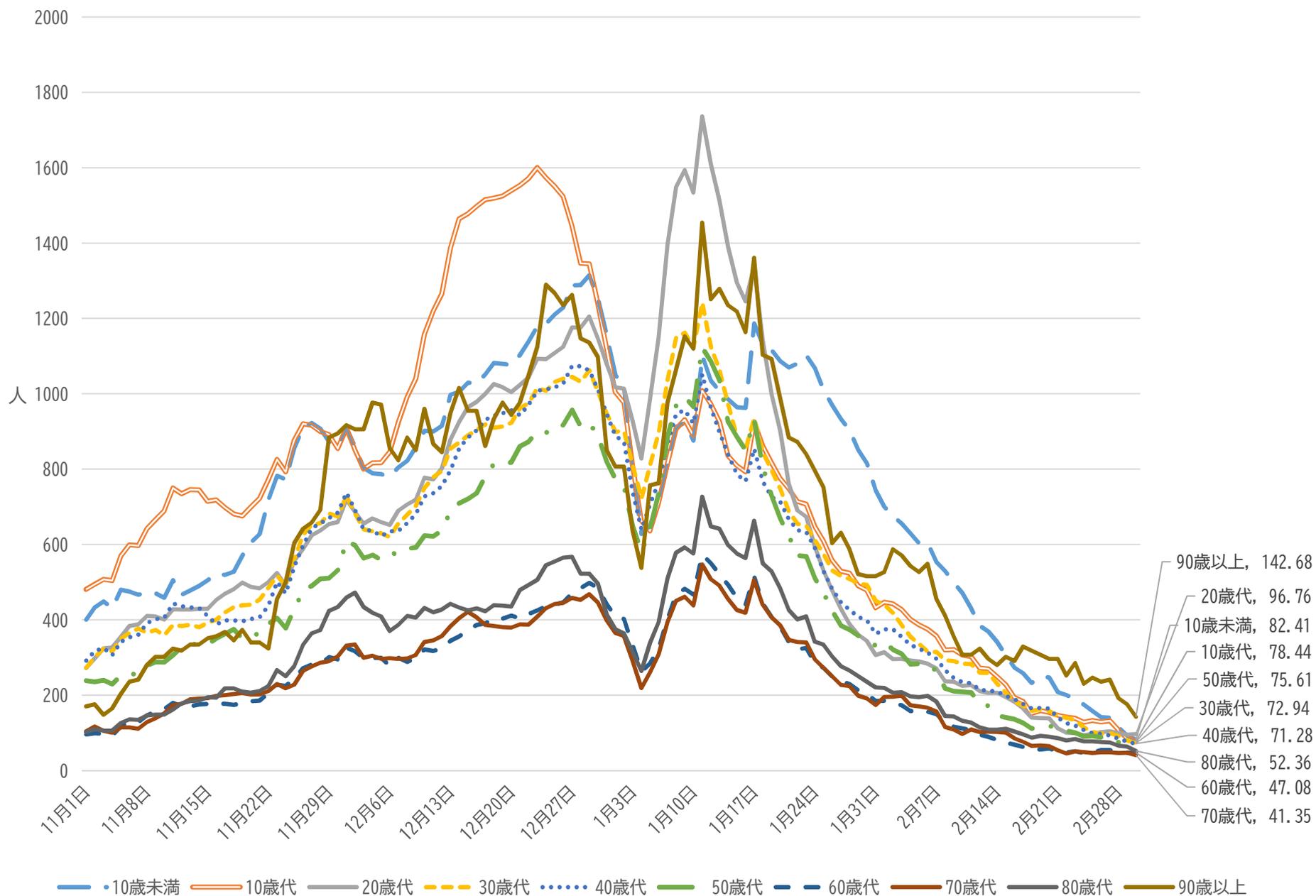
曜日ごとの新規陽性者数の推移



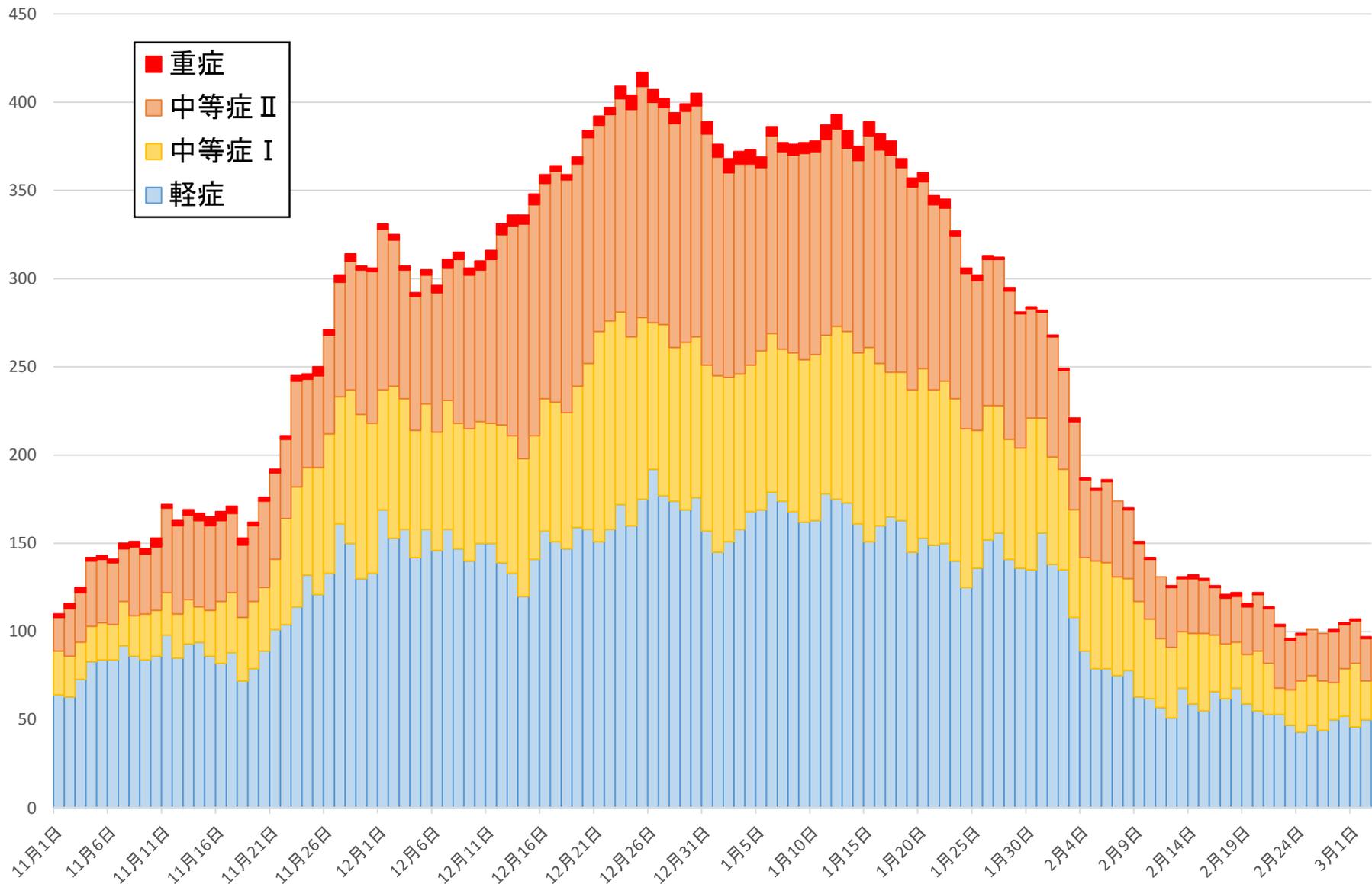
月	火	水	木	金	土	日	週合計	今週/先週比
1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	5655	0.67
415	1444	1001	746	695	828	526		
1/30	1/31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	4307	0.76
235	988	1027	603	517	531	406		
2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2881	0.67
150	751	579	462	363	464	112		
2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18	2/19	1924	0.67
85	570	396	246	217	240	170		
2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25	2/26	1320	0.69
56	359	279	216	72	197	141		
2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5		
55	200	175	140					

黄色は先週の同じ曜日から増

滋賀県 年代別10万人あたり新規陽性者数推移(直近7日間の累計患者数) (R4.11/1~R5.3/2) 日別・公表日



滋賀県 入院者の重症度推移(R4.11/1~R5.3/2) 日別・公表日

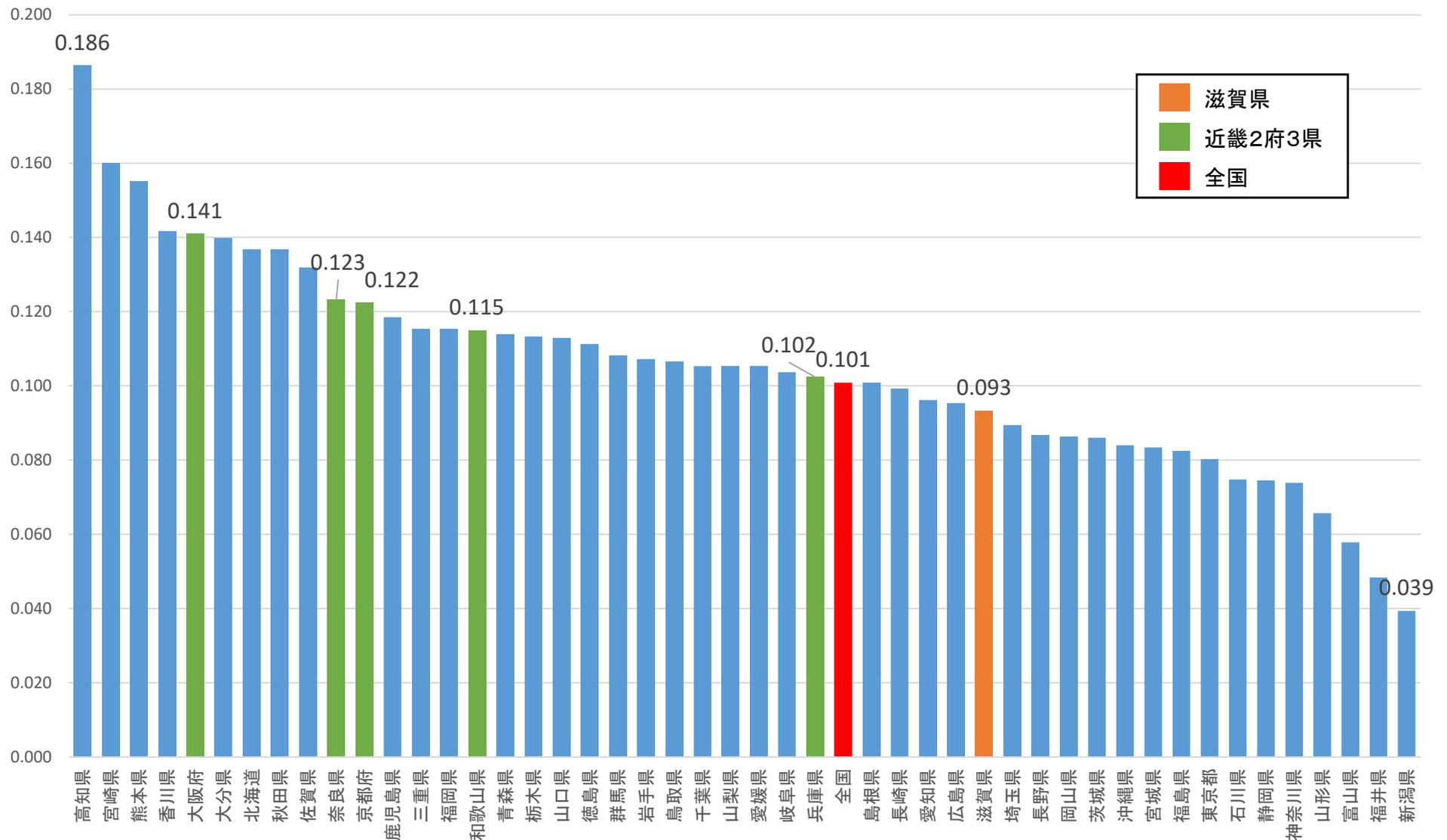


コントロールセンター通信より

滋賀県 R4.7/1～R5.3/2の重症度

年代	第7波:7/1～10/31				第8波:11/1～3/2			
	陽性者数	中等症Ⅰ	中等症Ⅱ	重症	陽性者数	中等症Ⅰ	中等症Ⅱ	重症
10歳未満	23029	68 (0.30%)	14 (0.06%)	2 (0.009%)	16841	23 (0.14%)	18 (0.11%)	0 (-)
10歳代	23254	51 (0.22%)	9 (0.04%)	1 (0.004%)	18815	5 (0.03%)	3 (0.02%)	0 (-)
20歳代	20248	68 (0.34%)	9 (0.04%)	0 (-)	16310	16 (0.10%)	12 (0.07%)	0 (-)
30歳代	22754	95 (0.42%)	13 (0.06%)	0 (-)	18146	20 (0.11%)	9 (0.05%)	1 (0.006%)
40歳代	24075	116 (0.48%)	26 (0.11%)	3 (0.012%)	19657	45 (0.23%)	22 (0.11%)	3 (0.015%)
50歳代	16254	126 (0.78%)	40 (0.25%)	8 (0.049%)	14344	65 (0.45%)	53 (0.37%)	8 (0.056%)
60歳代	9246	137 (1.48%)	60 (0.65%)	7 (0.076%)	8576	146 (1.70%)	82 (0.96%)	12 (0.140%)
70歳代	6063	266 (4.39%)	188 (3.10%)	9 (0.148%)	6125	327 (5.34%)	290 (4.73%)	17 (0.278%)
80歳代	3828	366 (9.56%)	386 (10.08%)	21 (0.549%)	4338	525 (12.10%)	551 (12.70%)	31 (0.715%)
90歳以上	1858	245 (13.19%)	307 (16.52%)	3 (0.161%)	2105	325 (15.44%)	428 (20.33%)	19 (0.903%)
合計	150609	1538 (1.02%)	1052 (0.70%)	54 (0.036%)	125257	1497 (1.20%)	1468 (1.17%)	91 (0.073%)
(再掲)60歳未満	129614	524 (0.40%)	111 (0.09%)	14 (0.011%)	104113	174 (0.17%)	117 (0.11%)	12 (0.012%)
(再掲)60歳以上	20995	1014 (4.83%)	941 (4.48%)	40 (0.191%)	21144	1323 (6.26%)	1351 (6.39%)	79 (0.374%)

オミクロン株の1日当たりの10万人当たりの死亡人数(平均値) (R4.1.1~R5.3.2)



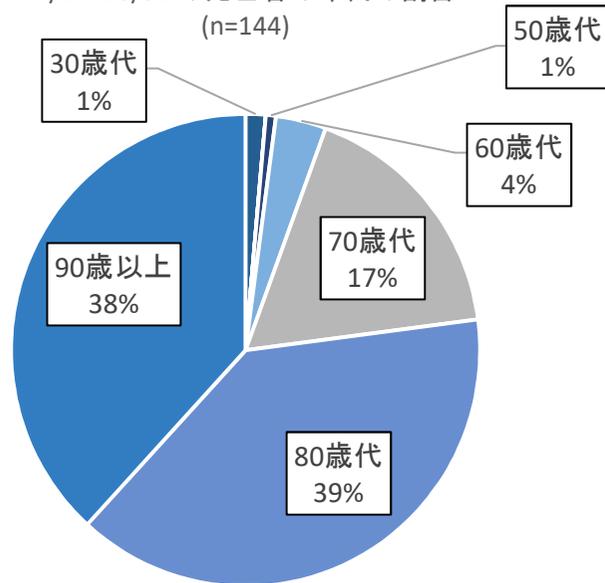
全国よりも低い水準となっている一つの要因として、入院調整をコントロールセンターが一元管理しており、うまく機能していることが考えられる。

データソース: 厚生労働省オープンデータ・統計局人口推計2020年都道府県

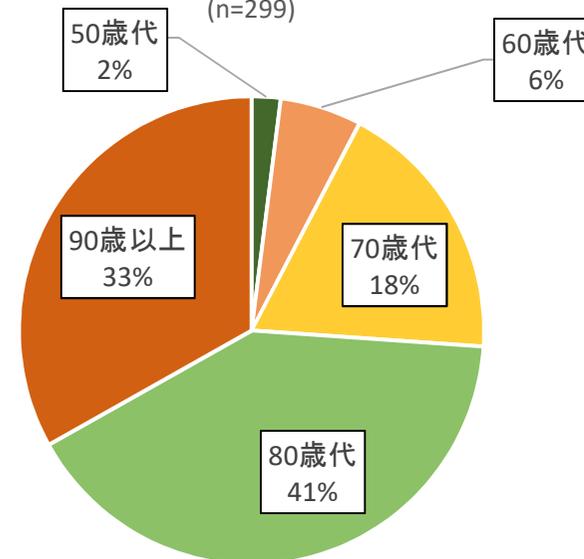
滋賀県 年代別の死亡者数と致命率

	第7波 (2022/7/1～2022/10/31)			第8波 (2022/11/1～2023/3/2時点)		
	新規陽性者数	死亡者数	致命率	新規陽性者数	死亡者数	致命率
10歳未満	23029	0	—	16841	0	—
10歳代	23254	0	—	18815	0	—
20歳代	20248	0	—	16310	0	—
30歳代	22,754	2	0.009%	18146	0	—
40歳代	24075	0	—	19657	0	—
50歳代	16254	1	0.006%	14344	6	0.042%
60歳代	9246	5	0.054%	8576	17	0.198%
70歳代	6063	25	0.412%	6125	55	0.898%
80歳代	3828	56	1.463%	4338	122	2.812%
90歳以上	1858	55	2.960%	2105	99	4.703%
合計	150609	144	0.096%	125257	299	0.239%
(再掲)60歳未満	129614	3	0.002%	104113	6	0.006%
(再掲)60歳以上	20995	141	0.672%	21144	293	1.386%

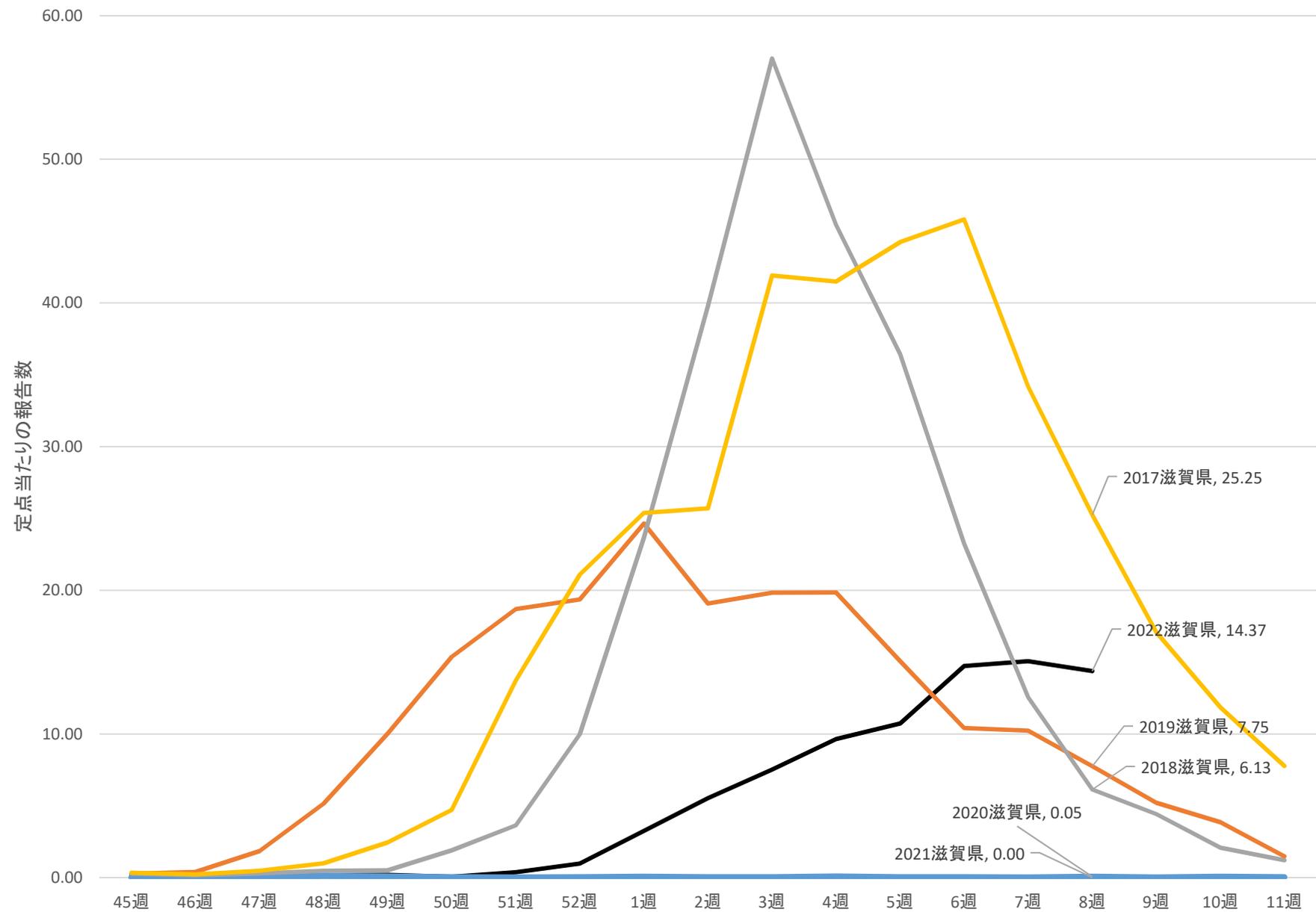
7/1～10/31の死亡者の年代の割合
(n=144)



11/1～3/2時点の死亡者の年代の割合
(n=299)



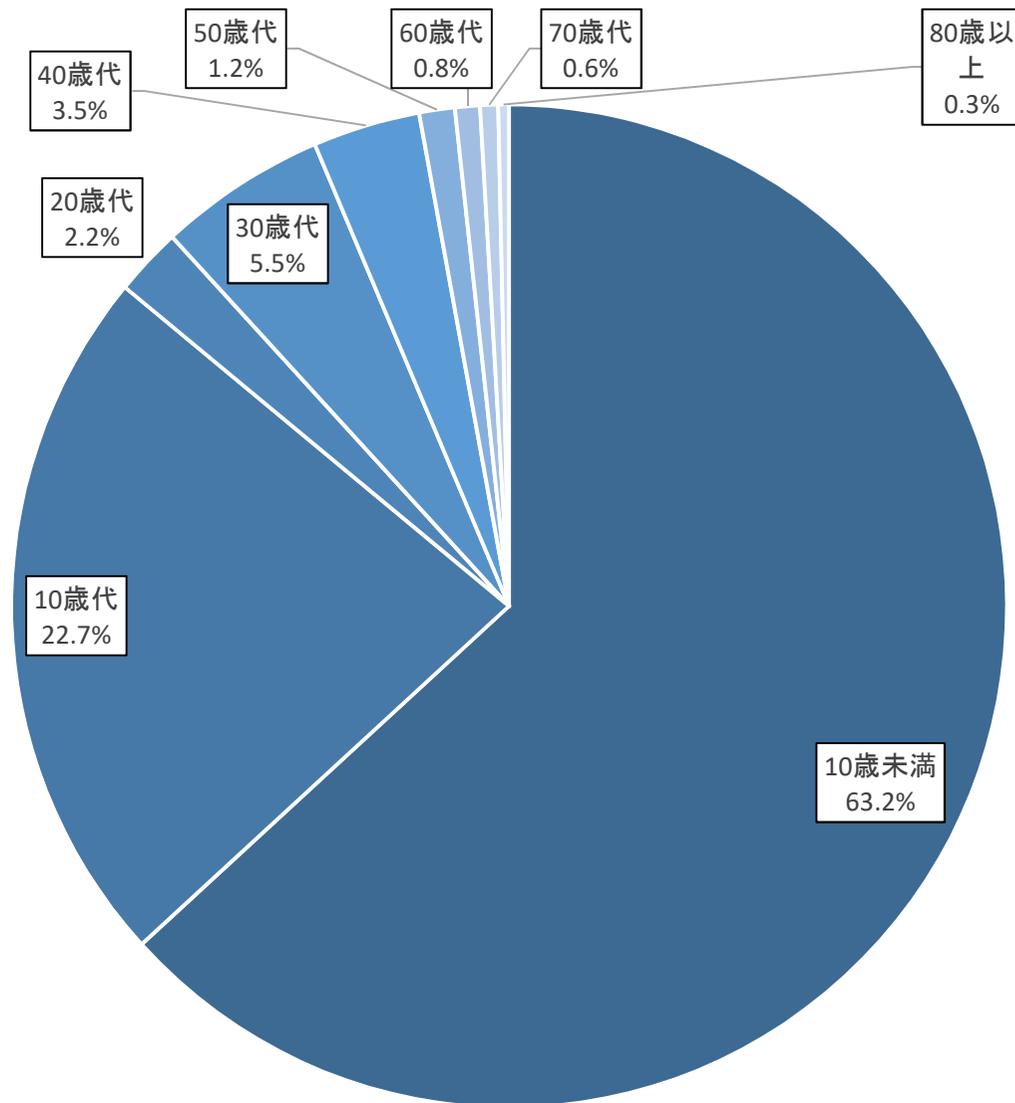
滋賀県の季節性インフルエンザ流行状況 2017年～2023年第8週（～R5.2/26）



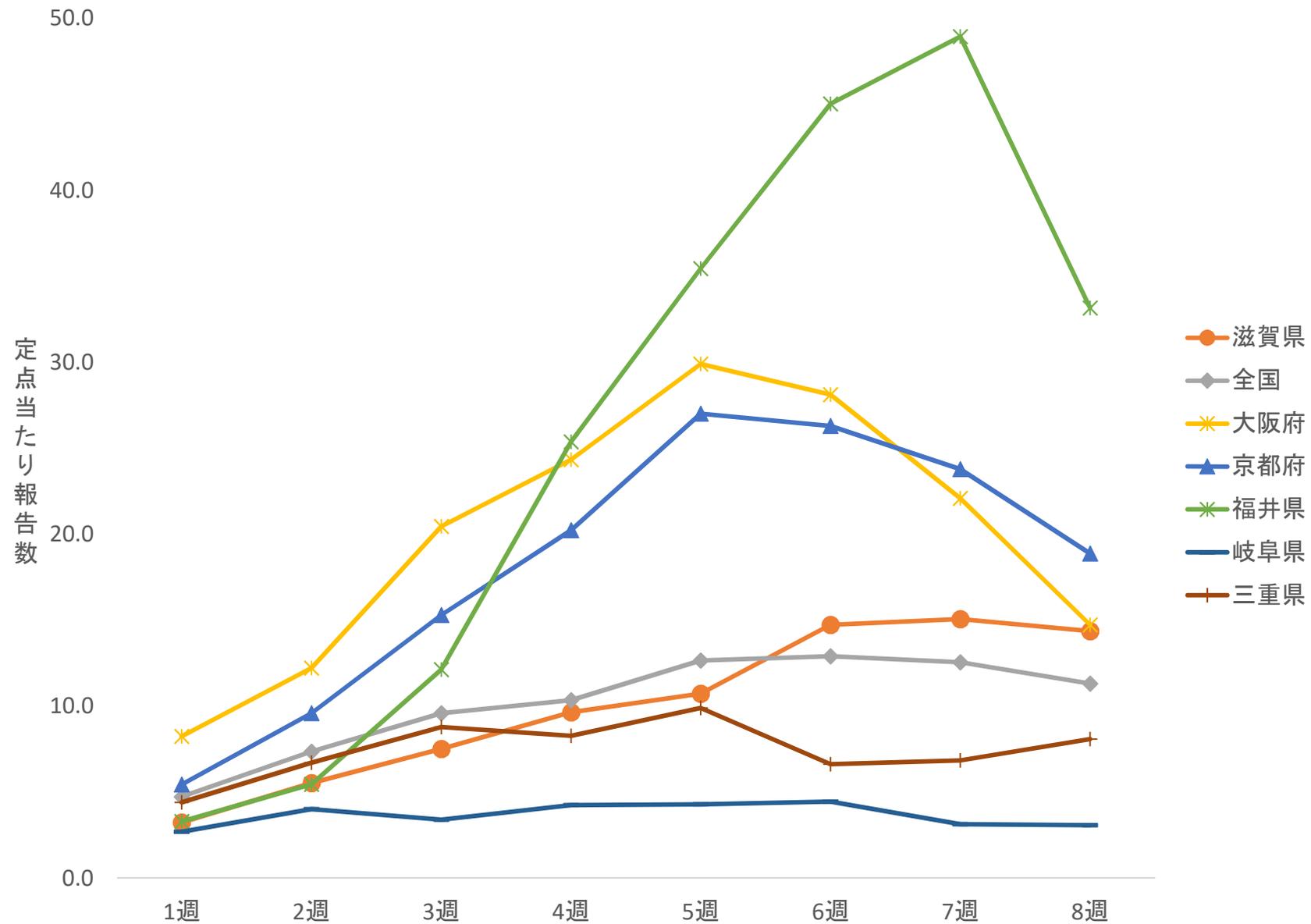
保健所圏域別インフルエンザの週別定点当たり報告数

		大津市 (定点数:13)	草津 (定点数:13)	甲賀 (定点数:7)	東近江 (定点数:10)	彦根 (定点数:7)	長浜 (定点数:7)	高島 (定点数:3)	合計 (定点数:60)
2022年第50週 12/12~12/18	定点あたりの報告数	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
	報告数	2	0	0	0	0	1	0	3
第51週 12/19~12/25	定点あたりの報告数	0.6	0.3	0.3	0.4	0.1	0.0	1.3	0.4
	報告数	8	4	2	4	1	0	4	23
第52週 12/26~1/1	定点あたりの報告数	2.2	0.8	0.6	1.0	0.3	0.3	0.7	1.0
	報告数	28	10	4	10	2	2	2	58
2023年第1週 1/2~1/8	定点あたりの報告数	6.5	2.1	1.6	3.0	2.1	0.3	8.3	3.3
	報告数	85	27	11	30	15	2	25	195
第2週 1/9~1/15	定点あたりの報告数	9.3	4.1	7.9	5.7	2.9	1.1	6.0	5.5
	報告数	121	53	55	57	20	8	18	332
第3週 1/16~1/22	定点あたりの報告数	10.5	7.9	7.6	10.1	4.9	1.3	5.0	7.5
	報告数	136	103	53	101	34	9	15	451
第4週 1/23~1/29	定点あたりの報告数	14.9	8.9	8.4	14.3	5.9	3.1	1.3	9.7
	報告数	194	116	59	143	41	22	4	579
第5週 1/30~2/5	定点あたりの報告数	16.3	8.5	8.7	13.8	7.9	5.9	9.0	10.7
	報告数	212	110	61	138	55	41	27	644
第6週 2/6~2/12	定点あたりの報告数	22.1	10.8	20.1	13.1	5.9	10.1	24.3	14.7
	報告数	287	140	141	131	41	71	73	884
第7週 2/13~2/19	定点あたりの報告数	19.9	15.8	22.3	13.2	4.3	11.1	15.0	15.1
	報告数	258	205	156	132	30	78	45	904
第8週 2/20~2/26	定点あたりの報告数	18.3	15.9	15.3	15.6	6.0	11.1	11.7	14.4
	報告数	238	206	107	156	42	78	35	862

インフルエンザ患者の年齢分布(2023年第8週、滋賀県、n=862)



近隣府県別インフルエンザの発生動向(2023年)



評価

- 全国の新規陽性者数は、1月中旬以降継続して減少傾向（実効再生産数Rtが1より小さい）になっています。
- 本県も減少傾向にあり3月2日時点で今週先週比は0.64（7週連続で前週比減）、直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数は69.3となりました。100人を下回るのは、2022年7月以来となります。年代別でも、全ての年代で減少傾向にあります。
- 最大確保病床に対する占有率は3月2日時点で23.0%と20%台前半で推移しています。重症病床の占有率は1.9%と低い水準で推移しています。
- 受験や転勤等で移動が多くなったり、普段会わない人との接触の機会が多くなると、感染者数が増加します。継続して場面に応じたマスク着用、換気、手指消毒など基本的な感染対策をお願いします。
- 高齢者施設等で継続して感染者が報告されています。換気が十分でない場合が多く、寒い時期で常時換気が難しいところですが、居室でのケア時や食事時など、人が密になる場面で特に気を付けて換気をお願いします。医療・介護サービスを安全かつ継続的に提供するため、また職員自身の健康を守るため、感染対策の知識を習得して実践しましょう。
- ワクチンの効果は徐々に減弱するので、オミクロン株対応ワクチンを接種していない方は、もう1回のオミクロン株対応ワクチン接種を検討してください。
- 本県の第8週(2/20～2/26)のインフルエンザ定点医療機関当たりの報告数は14.37でこのところ横ばいとなっており、継続して注意報レベルにあります。近隣府県でも注意報レベルが続いており、引き続き動向に注視が必要です。

変異株にかかるゲノム解析状況について

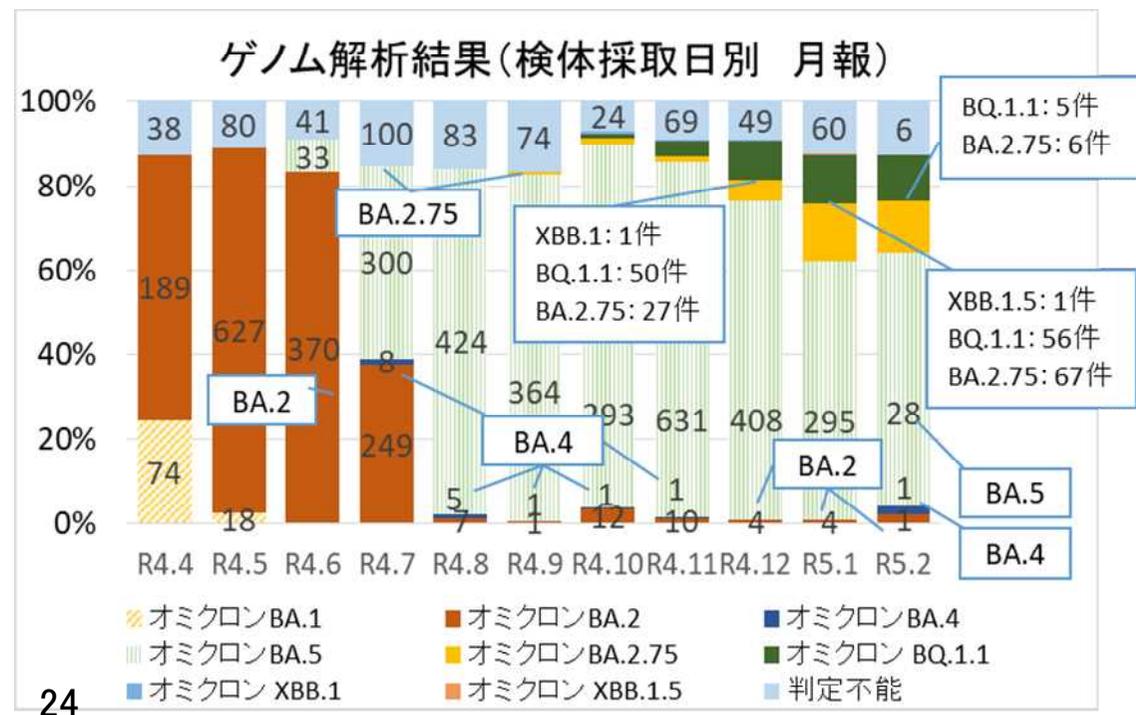
■全国の状況について

感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株について(第25報)
(2023年2月10日 国立感染症研究所)抜粋

- オミクロンの中では多くの亜系統が発生しているが、BA.5 系統が65.7%、BA.2 系統が14.6%、BA.4 系統が0.3%、(いずれも亜系統を含む)と、引き続き世界的にBA.5系統が流行の主流となっている(WHO, 2023a)。
- いくつかの地域で感染者数増加の優位性がみられる亜系統も報告されているが、特定の変異株が世界的に優勢となる兆候は見られない。一方で、2023 年第 2 週時点で、BQ.1系統は全世界で検出された株の46.9%を占め、割合は上昇傾向が続いている(WHO, 2023a)。
- 日本では、2月1日時点でBQ.1系統が検疫で98件、国内で9,648件検出されており(GISAID,2023)、第43週(10月24日～30日)には1.4%であったが、第6週(2月6日～12日)においては42%を占めると推定されている(国立感染症研究所,2023b)。
- BQ.1系統、XBB系統ともに、中和抗体からの逃避能の上昇が示唆されているが、重症度、治療薬の有効性への影響についての明らかな知見はなく、今後の国内外での検出状況、感染者数や重症者数の推移を注視する必要がある。

■滋賀県内の状況について

- 本県では、4月1日から3月2日までに6,683件のゲノム解析結果が判明しており、うちBA.5系統が10月時点で85.9%を占め、感染の主流系統がBA.2系統からBA.5系統に置き換わった。
- 10月以降、BA.2系統やBA.5系統を起源とする亜系統(BA.2.75、BQ.1.1、XBB.1)が増加傾向にある(XBB.1.5: 1検体検出(令和5年1月))。
- 特に、BA.2.75、BQ.1.1が占める割合は、10月時点でそれぞれ1.5%、1.2%であったのに対して、3月2日現在で12.8%、10.6%となっている。
- 引き続き、検出状況に注視する必要がある。



自宅療養の状況

●自宅療養者等支援センター 対応状況

1月16日 ~ 3月2日

週	健康観察対象者 (1日あたり) ※1	支援対象者 (1日あたり) ※2	受電件数 ※3		CC調整件数		受診調整件数		従事者数 (1日あたり)
			総数	1日あたり	総数	1日あたり	総数	1日あたり	
1/16の週 (1/16-1/22)	853	5,914	1,760	251	62	8.9	51	7.3	59
1/23の週 (1/23-1/29)	1,018	4,111	1,273	182	35	5.0	46	6.6	54
1/30の週 (1/30-2/5)	347	3,067	838	120	21	3.0	31	4.4	58
2/6の週 (2/6-2/12)	262	2,384	747	107	20	2.9	20	2.9	55
2/13の週 (2/13-2/19)	190	1,618	493	70	12	1.7	11	1.6	49
2/20の週 (2/20-2/26)	109	997	353	50	3	0.4	7	1.0	47
3月2日 (※24時時点)	86	629	49		1		1		49

令和4年9月26日からの全数届出の見直しにより

※1 発生届対象者を示す。

※2 発生届非対象者で、検査キット配布・陽性者登録センター、新型コロナ診断後申告窓口に登録、申告済みの陽性者のうち、HER-SYSに登録された者を示す。

※3 検査キット配布・陽性者登録センター、新型コロナ診断後申告窓口未登録・未申告の陽性者等から受電した件数を含む。

●食料品支援者数

7月1日 ~ 3月2日

3月2日 時点(総数)	48,721 人
--------------------	-----------------

(参考) 1日あたり受付件数

受付件数 (総数)	36,658 件
しがネット受付	32,063 件
電話受付	4,595 件

1/16の週 (1/16-1/22)	80
1/23の週 (1/23-1/29)	48
1/30の週 (1/30-2/5)	30
2/6の週 (2/6-2/12)	24
2/13の週 (2/13-2/19)	12
2/20の週 (2/20-2/26)	12
3月2日	5

●パルスオキシメーターの確保数

(自宅療養者に、家庭内は共有するなど必要数を貸出)

	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	支援センター	計
確保数	1,650	421	245	676	337	414	118	6,093	9,954

123

計	10,077
----------	---------------

新型コロナウイルス感染症罹患後症状実態調査 に関する報告について

調査の概要について

1 目的

新型コロナウイルス感染症による罹患後症状(後遺症)の実態を把握し、今後の相談・診療体制について検討を行う。

2 調査対象

県内574医療機関

(一般診療所:529機関、病院:45機関)

3 調査期間

令和4年7月22日 ~ 令和4年9月30日

4 調査方法

電子メール、郵送またはFAXにより回答

5 回答

回答医療機関 227機関(193診療所、34病院)

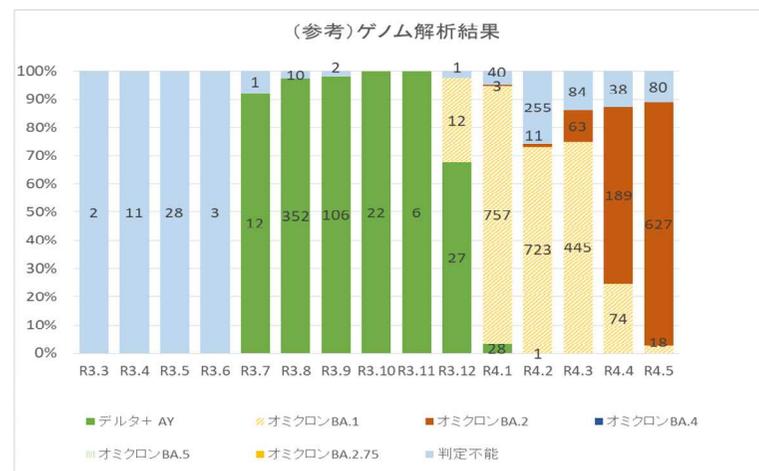
症例報告 70人(オミクロン株流行以降(令和4年1月1日~5月31日)に陽性と診断された48名(19医療機関から報告)、
デルタ株流行以前(令和3年12月31日まで)に陽性と診断された22名(9医療機関から報告)の合計)

6 定義

本調査における罹患後症状の定義は、次の条件をいずれも満たすものとします。

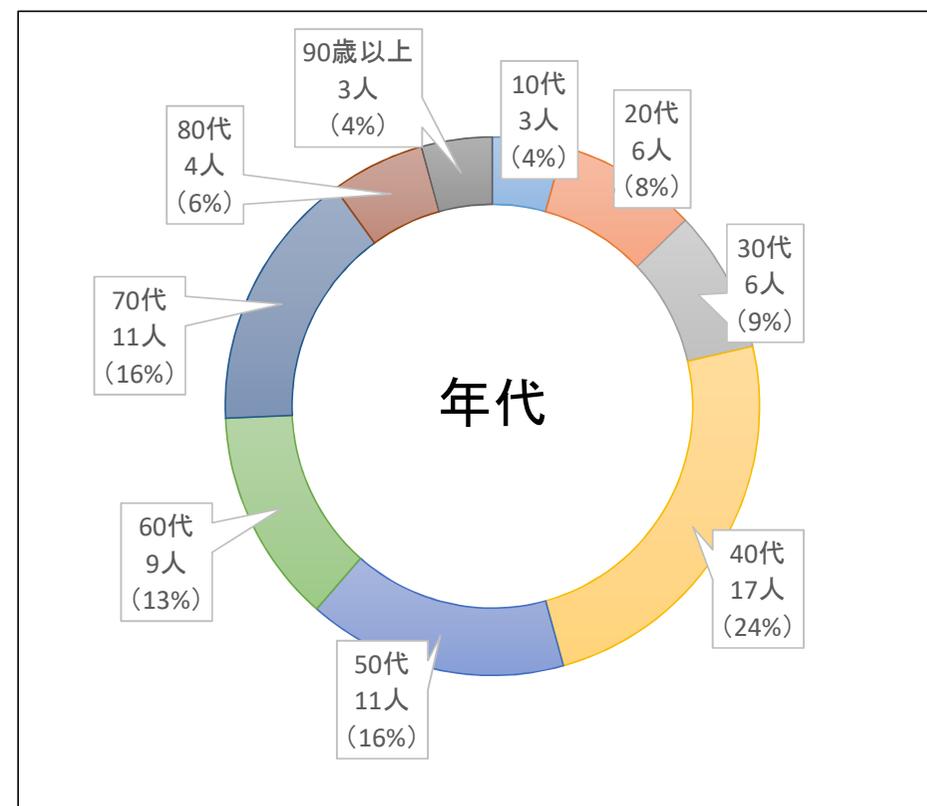
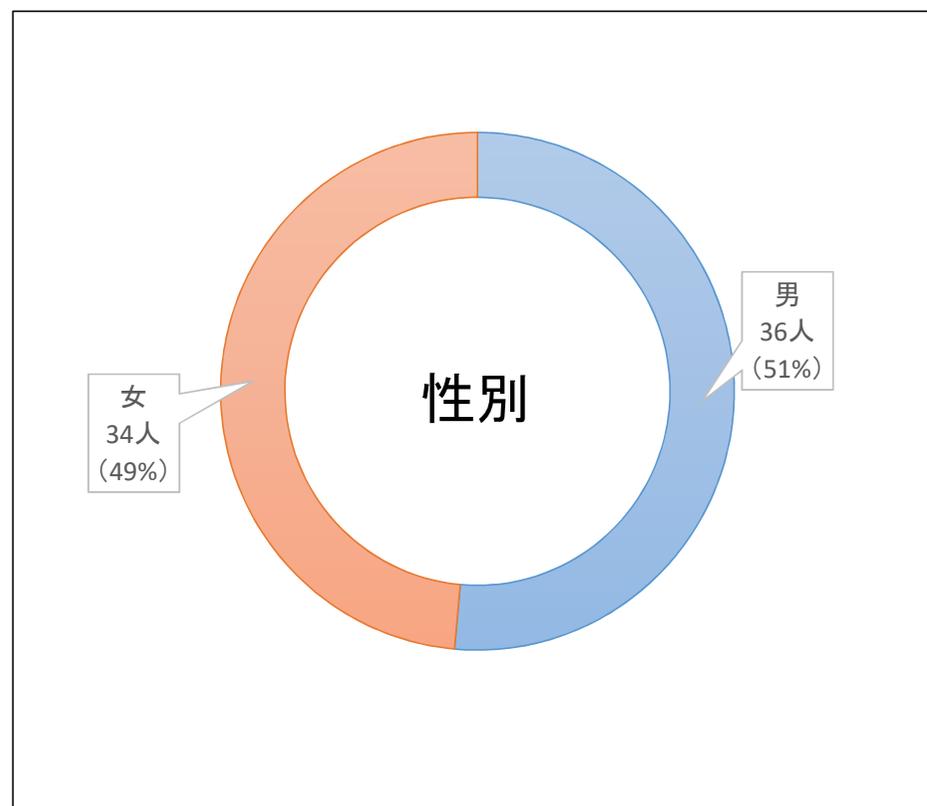
- ・新型コロナウイルス感染症に罹患した人にみられ、他の疾患として説明がつかない
- ・新型コロナウイルス感染症の診断から1か月以内にみられた症状である
- ・症状が少なくとも2か月以上継続する

【参考】厚生労働省 新型コロナウイルス感染症診療の手引き(別冊 罹患後症状のマネジメント)



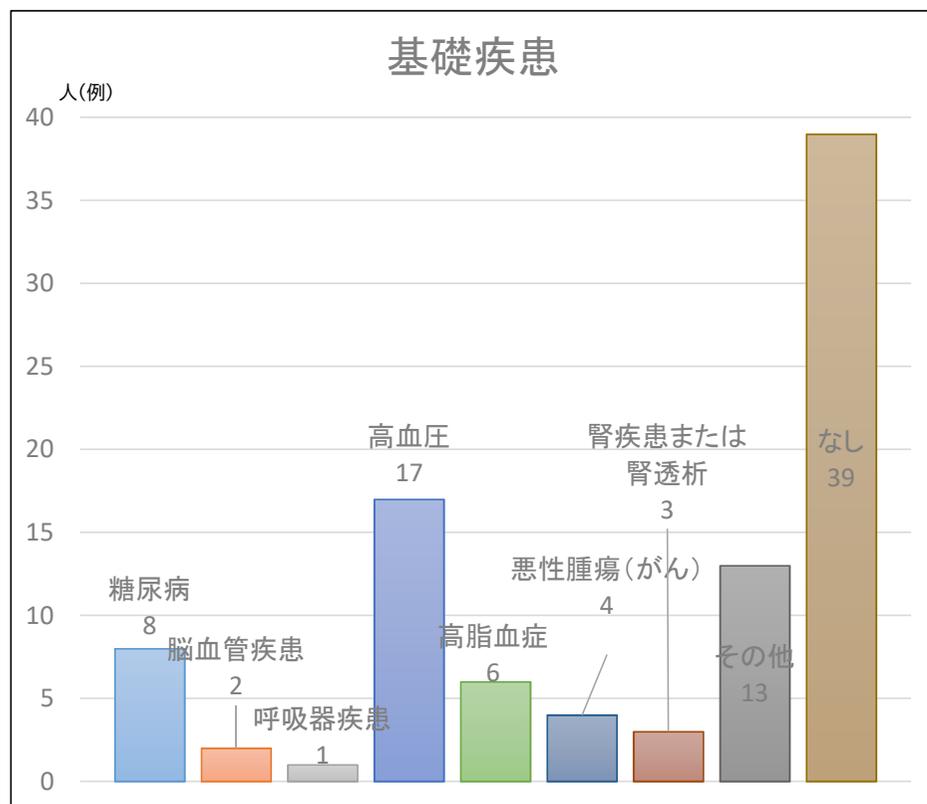
1 性別、年代について

- ・患者数は70人で、患者の性別に偏りは見られない。
- ・年代別では、40代が多く、また、20代から50代の現役世代が57%を占めている。

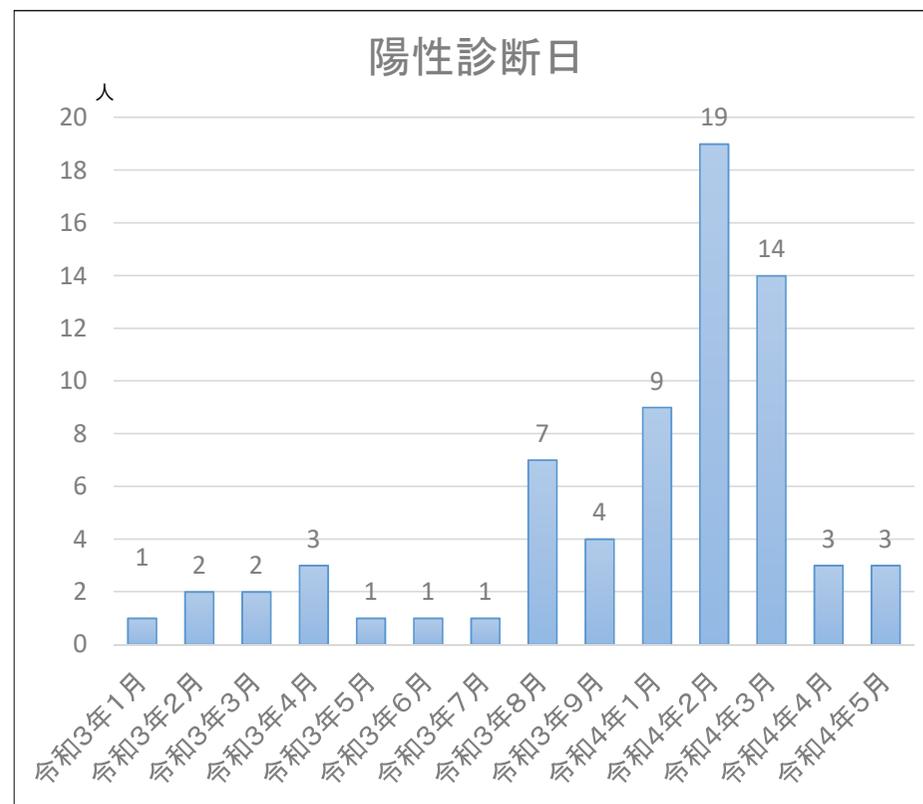


2 基礎疾患と新型コロナ診断年月日について

- ・基礎疾患を持たない患者が39人(56%)で最も多くなっている。次いで高血圧、糖尿病、高脂血症が多くなっている。「その他」では慢性心不全や脳梗塞、B型肝炎やアルツハイマー型認知症、パニック障害等があった。
- ・令和4年2月および3月に新型コロナ陽性と診断された方が33人(47%)を占めている。

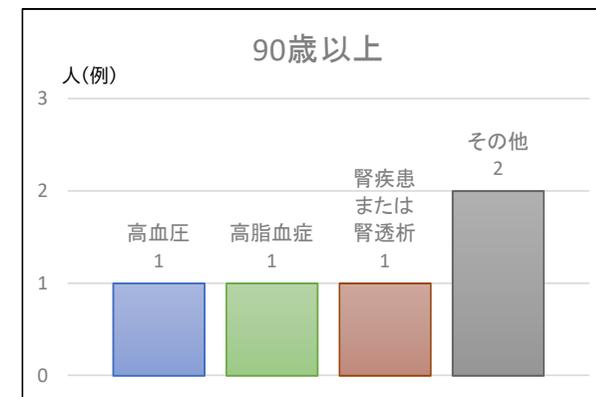
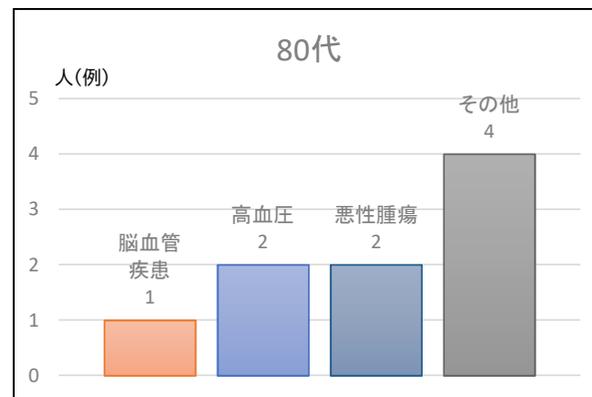
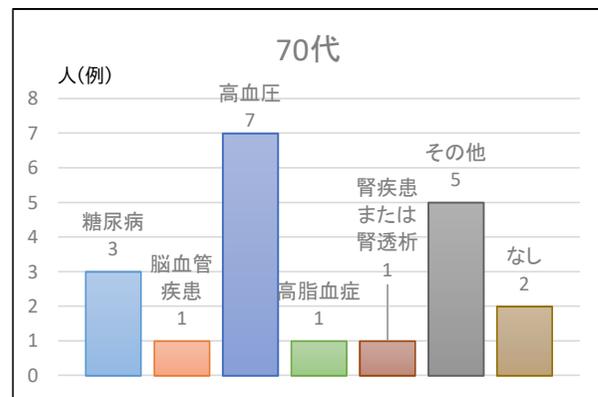
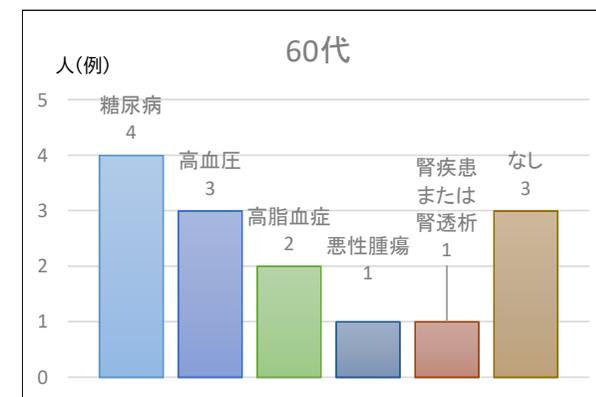
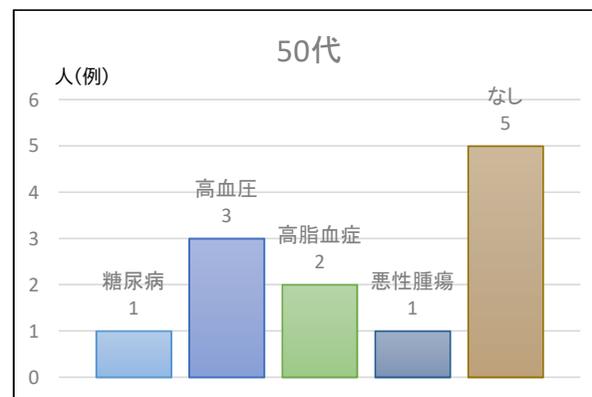
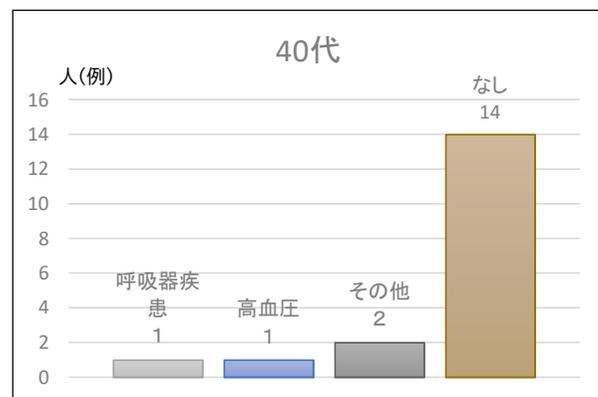


※複数回答を含む計93例



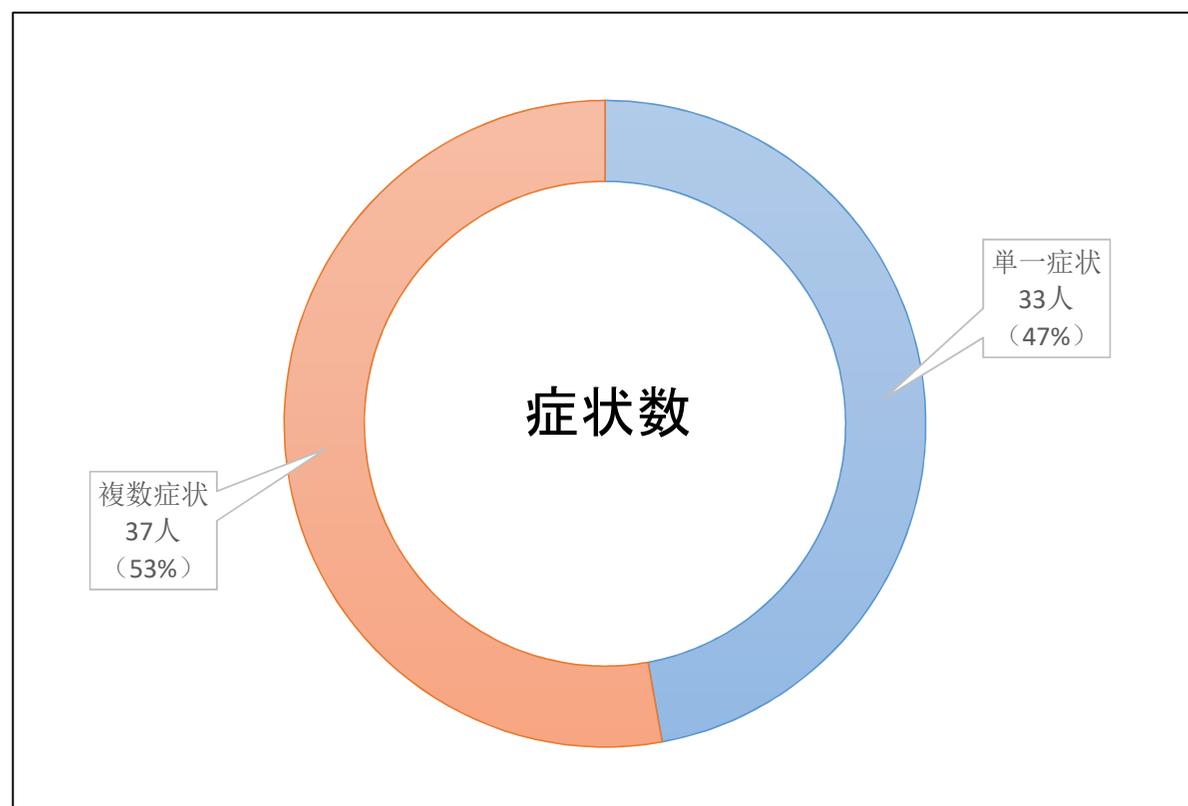
2 基礎疾患と年代について

- ・10代(3人)、20代(6人)、30代(6人)の患者にはいずれも基礎疾患はなかった。
- ・40代においても14人には基礎疾患がない一方、50代以上では基礎疾患を持つ患者の割合が高くなっている。



3 罹患後症状について(1)

・患者の症状は、単一症状の方が47%、複数症状の方が53%である。

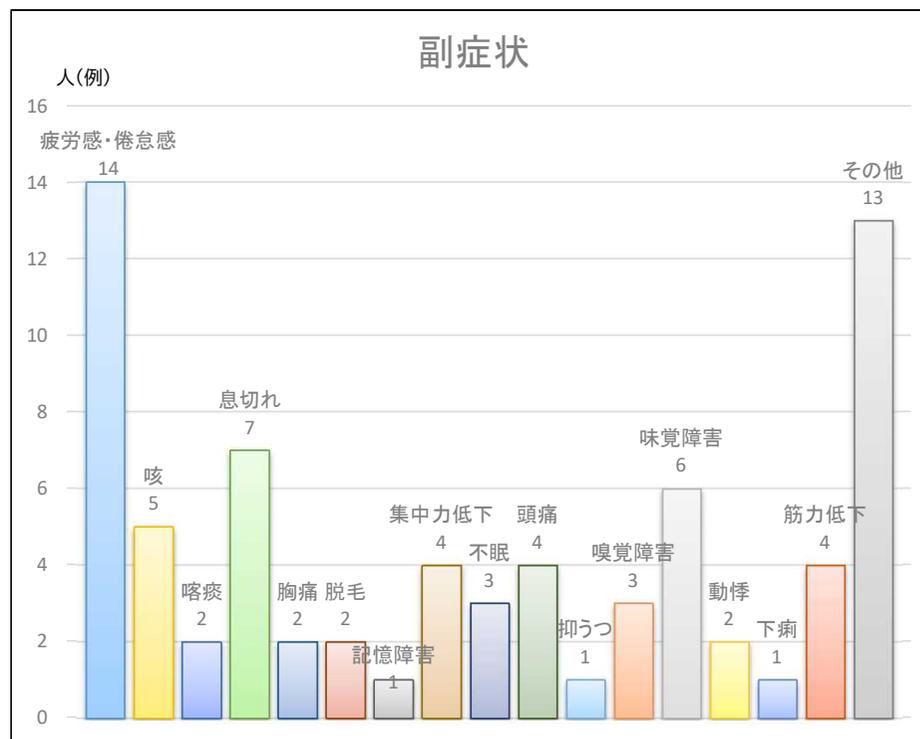
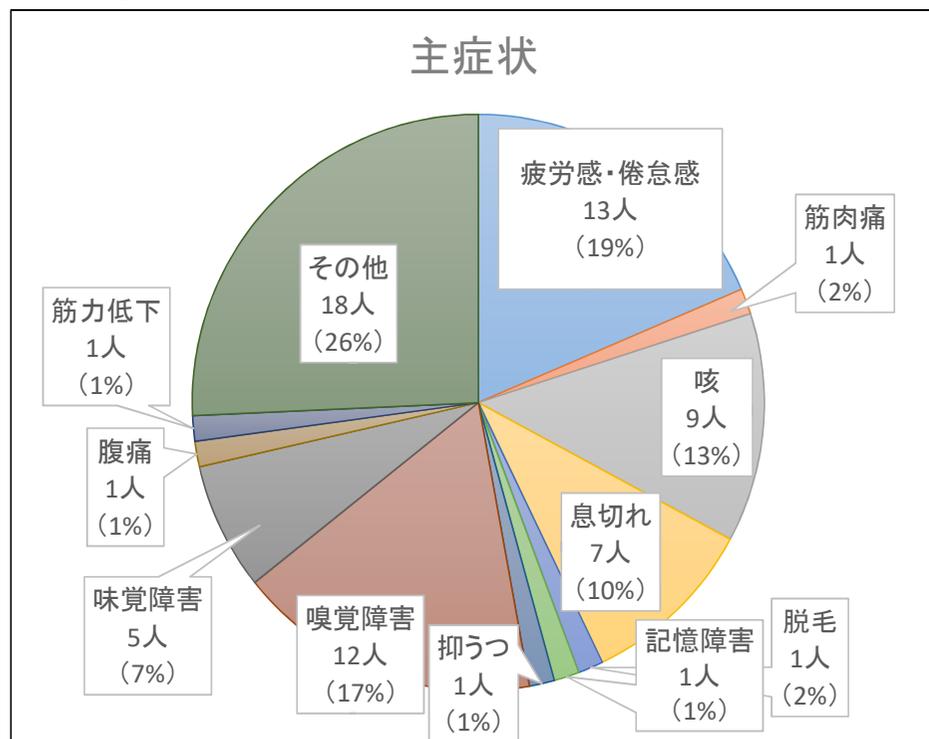


3 罹患後症状について(2)

・主症状では「その他」が最も多く、次いで疲労感・倦怠感や嗅覚障害が続いている。

「その他」では摂食障害が最も多く、他にも嚥下障害や労作時呼吸困難、めまいや嘔声等の訴えがあった。

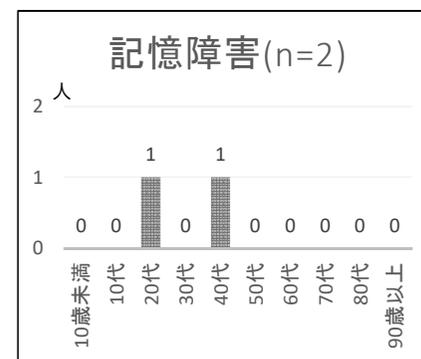
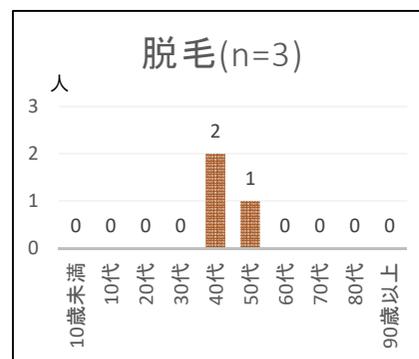
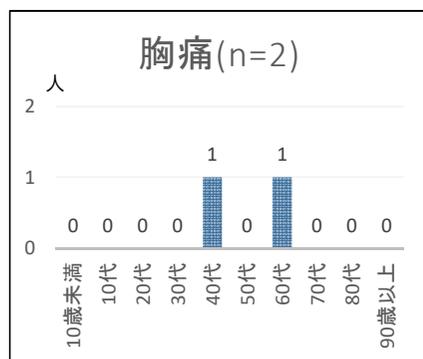
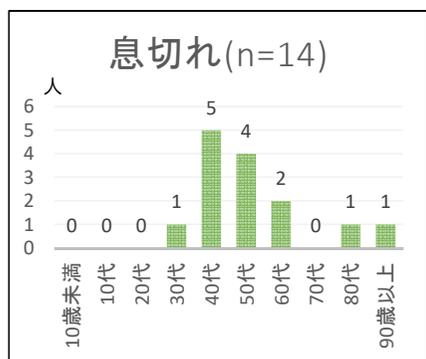
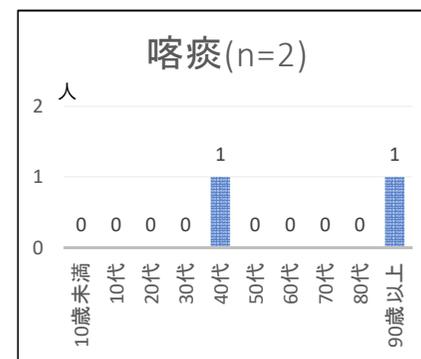
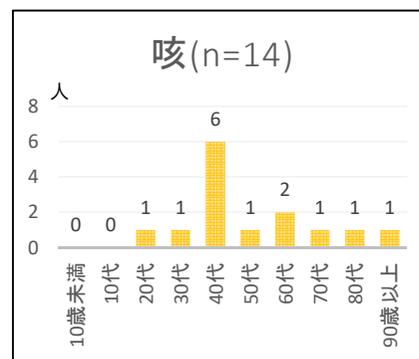
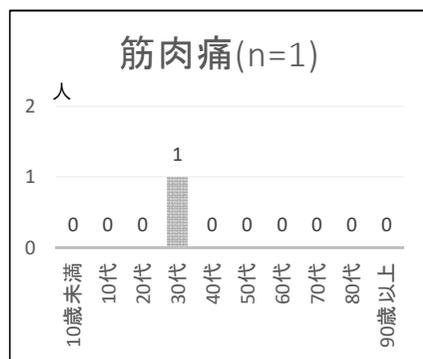
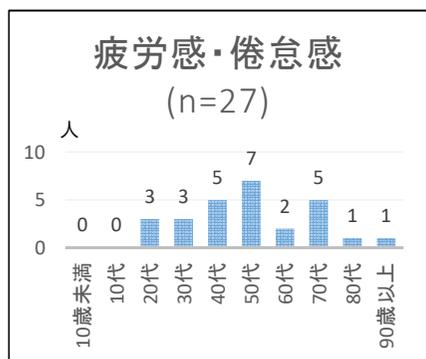
・副症状では疲労感・倦怠感と「その他」が突出して多く、主症状では見られない喀痰や集中力低下、動悸等の訴えがみられた。



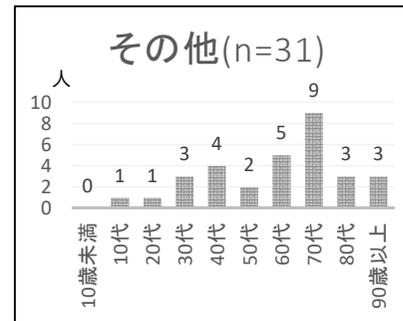
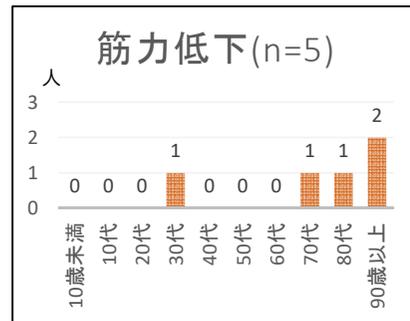
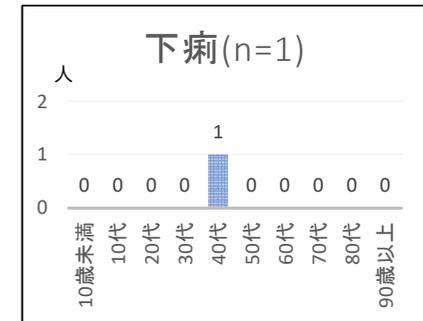
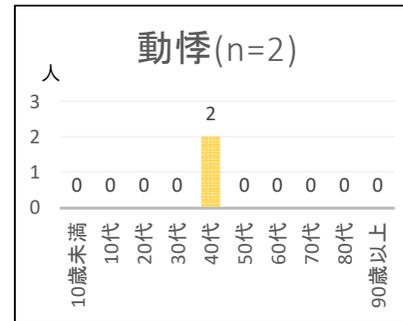
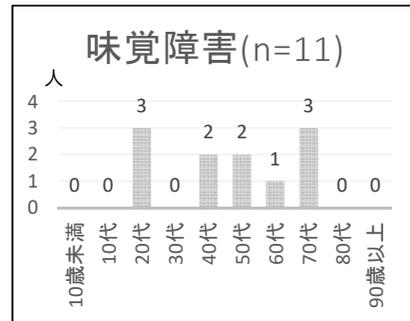
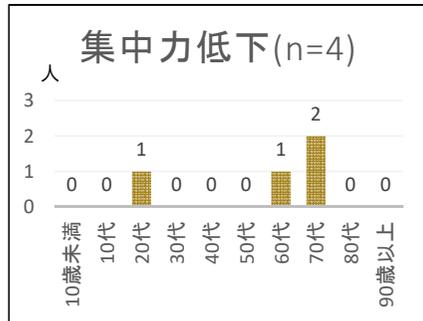
※副症状については複数回答含む計74症例

3 罹患後症状について(3)

・年代別に主症状+副症状を見ると、70名のうち27人(39%)が疲労感・倦怠感を訴えていた。また、疲労感・倦怠感や咳は各年代に幅広くみられる一方、嗅覚障害は40代までが11名(73%)、筋力低下は70代以上が4名(80%)を占め、年代による症状の偏りがみられる。

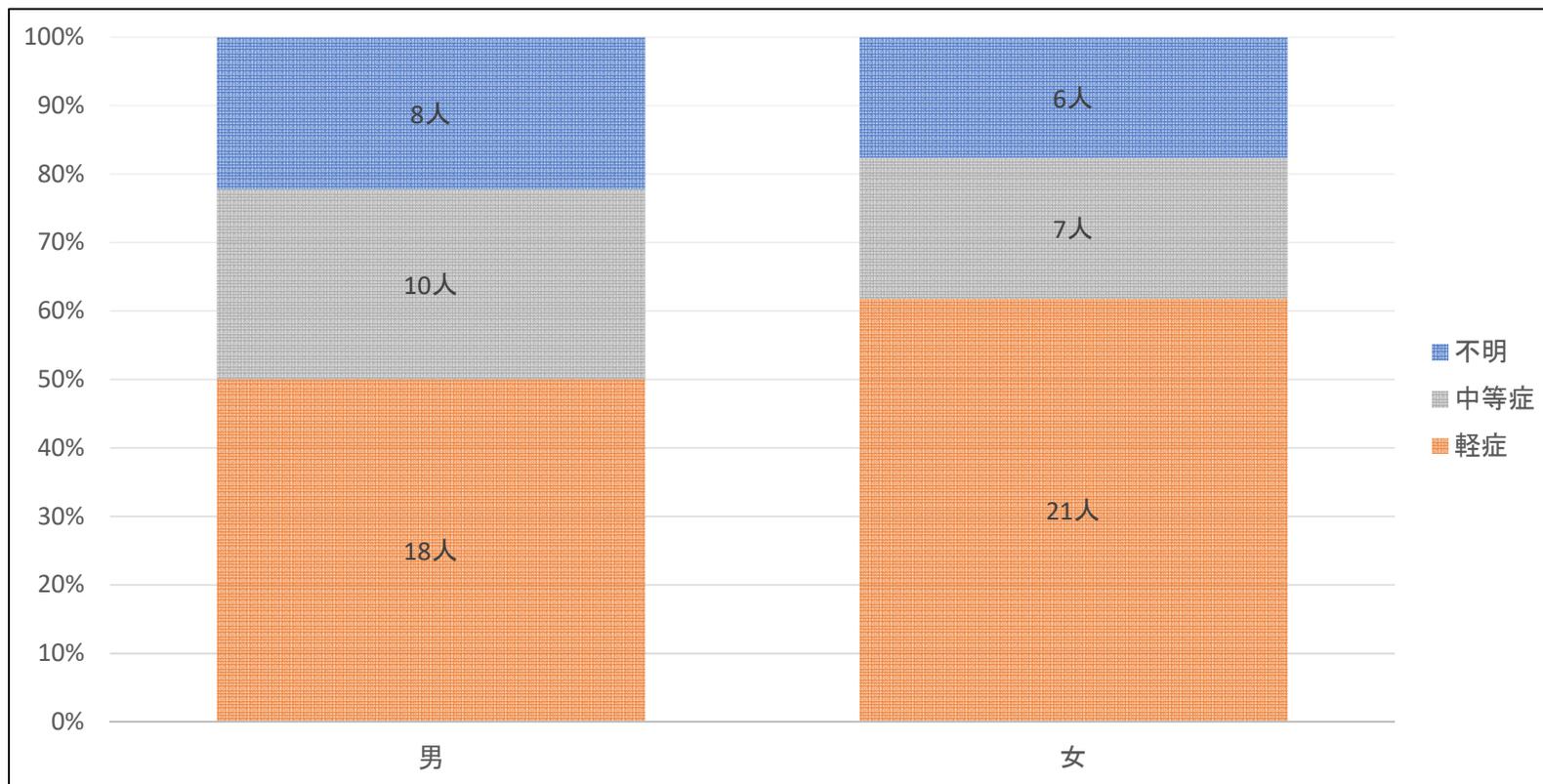


3 罹患後症状について(3)



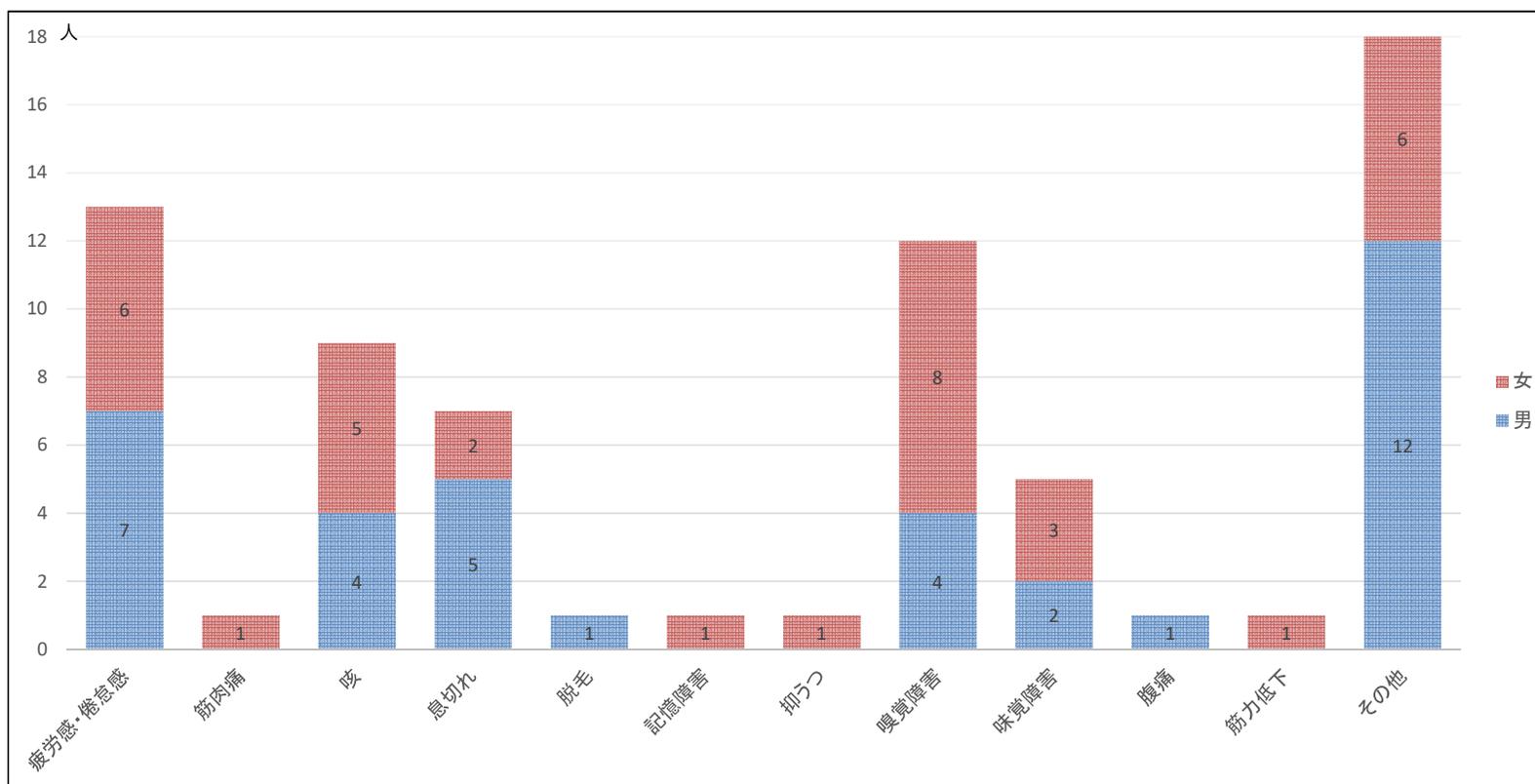
4 新型コロナ感染時の症状の程度について

・新型コロナ感染時症状の程度に関わらず罹患後症状が生じている。



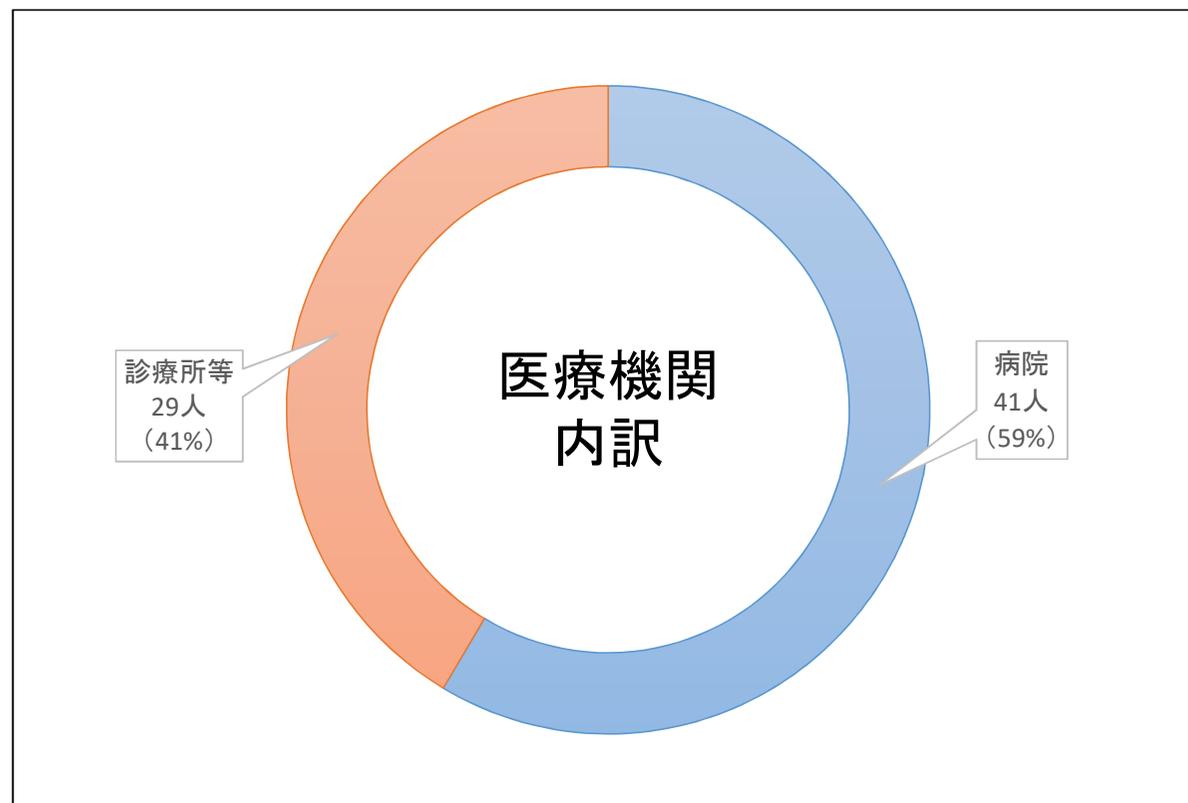
5 性別による主症状について

- ・息切れについて男性が女性の2.5倍、嗅覚障害について女性が男性の2倍多くなっている。
- ・脱毛、腹痛は男性に、筋肉痛、記憶障害、抑うつ、筋力低下は女性にのみみられる。



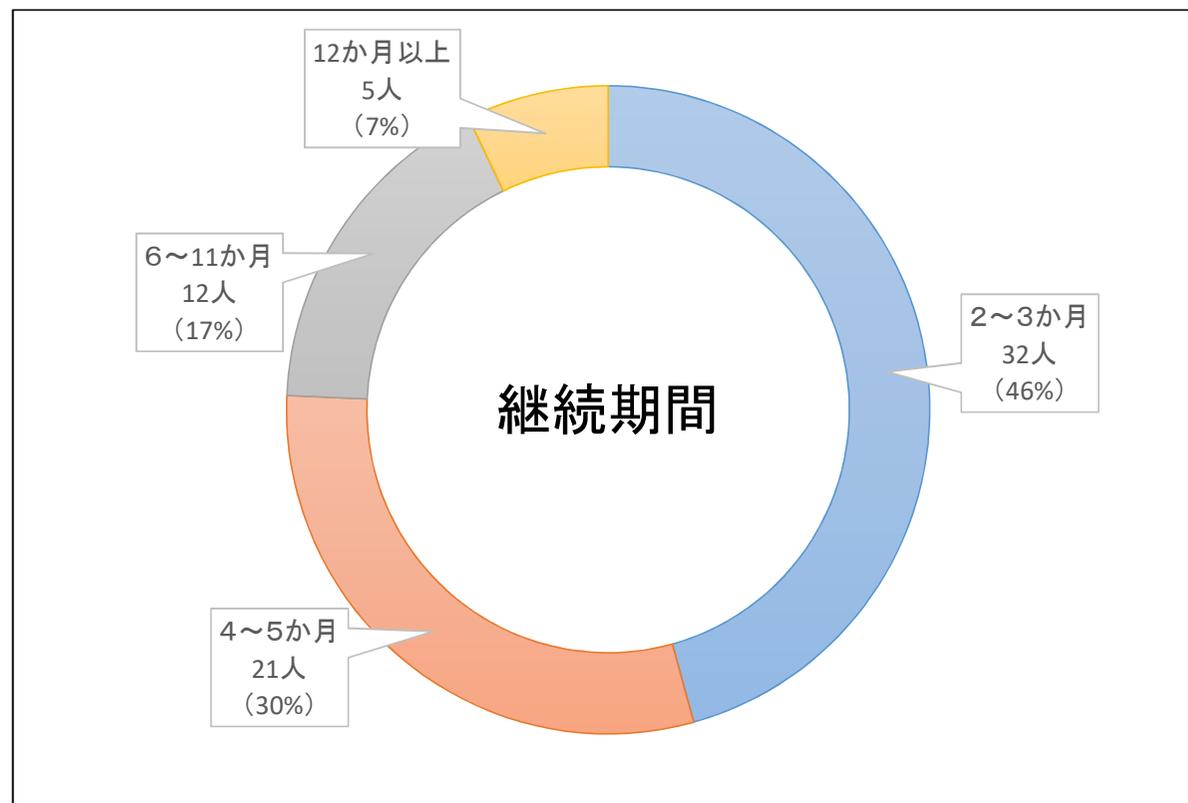
6 医療機関別の診療状況について

・病院が59%の症例を、一般診療所が41%の症例を診療している。



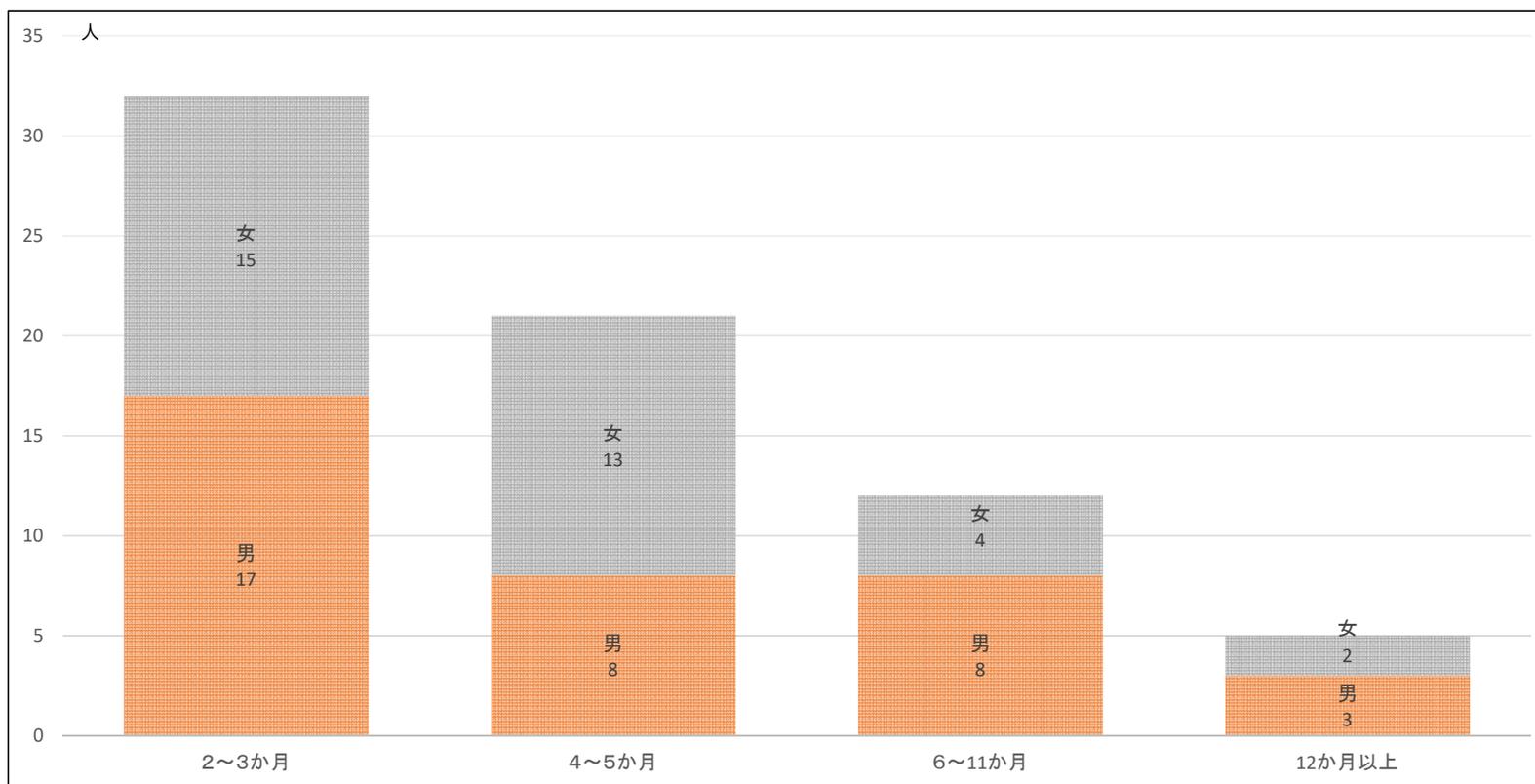
7 罹患後症状の継続期間について(1)

・継続期間は3か月以内が46%となる一方で、6か月以上継続している方も24%いる。



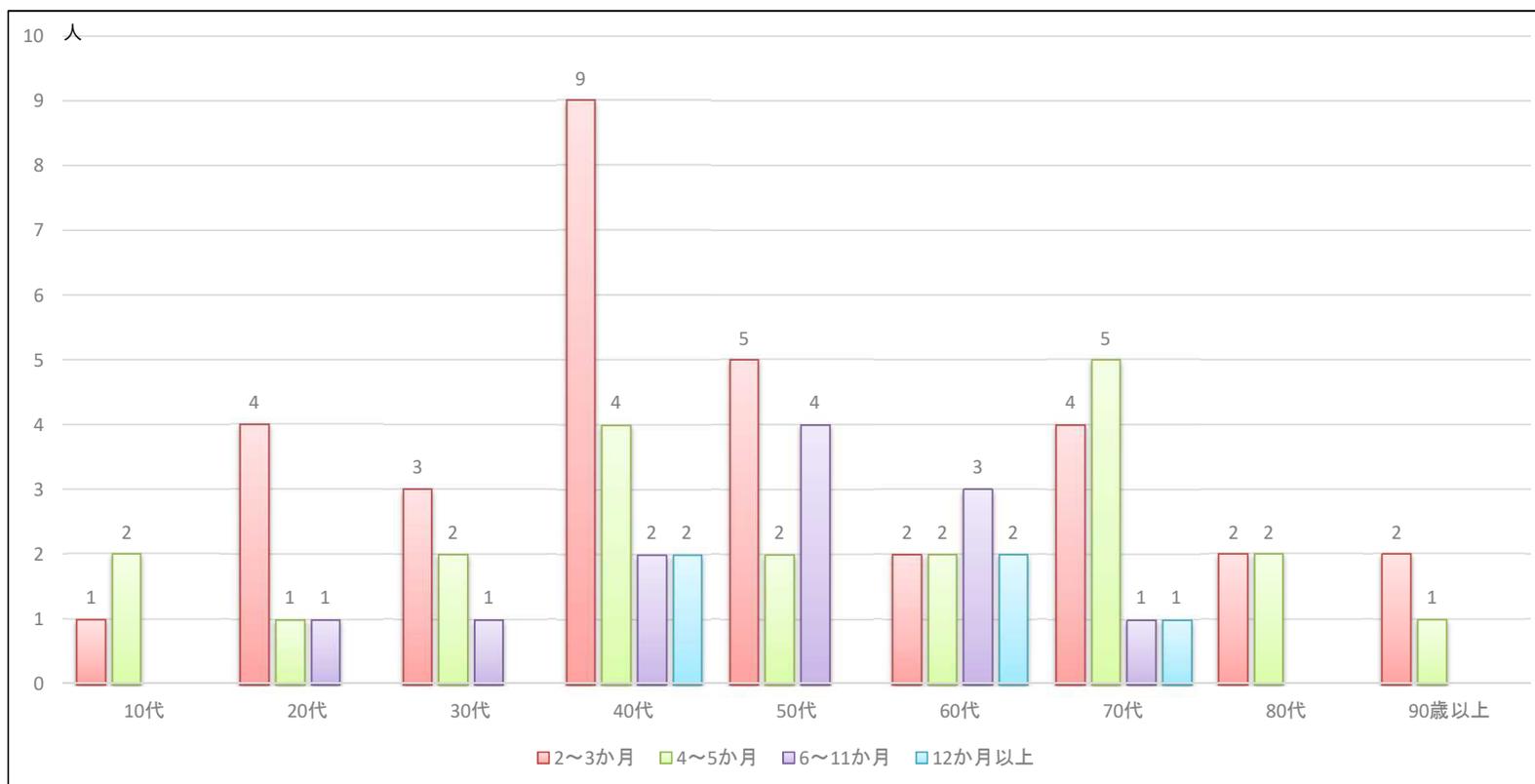
8 性別ごとの罹患後症状の継続期間について

- ・4～5か月では女性が男性に比べ約1.6倍多くなっている。
- ・6か月以上では男性が多く、6～11か月では男性が女性の2倍となっている。



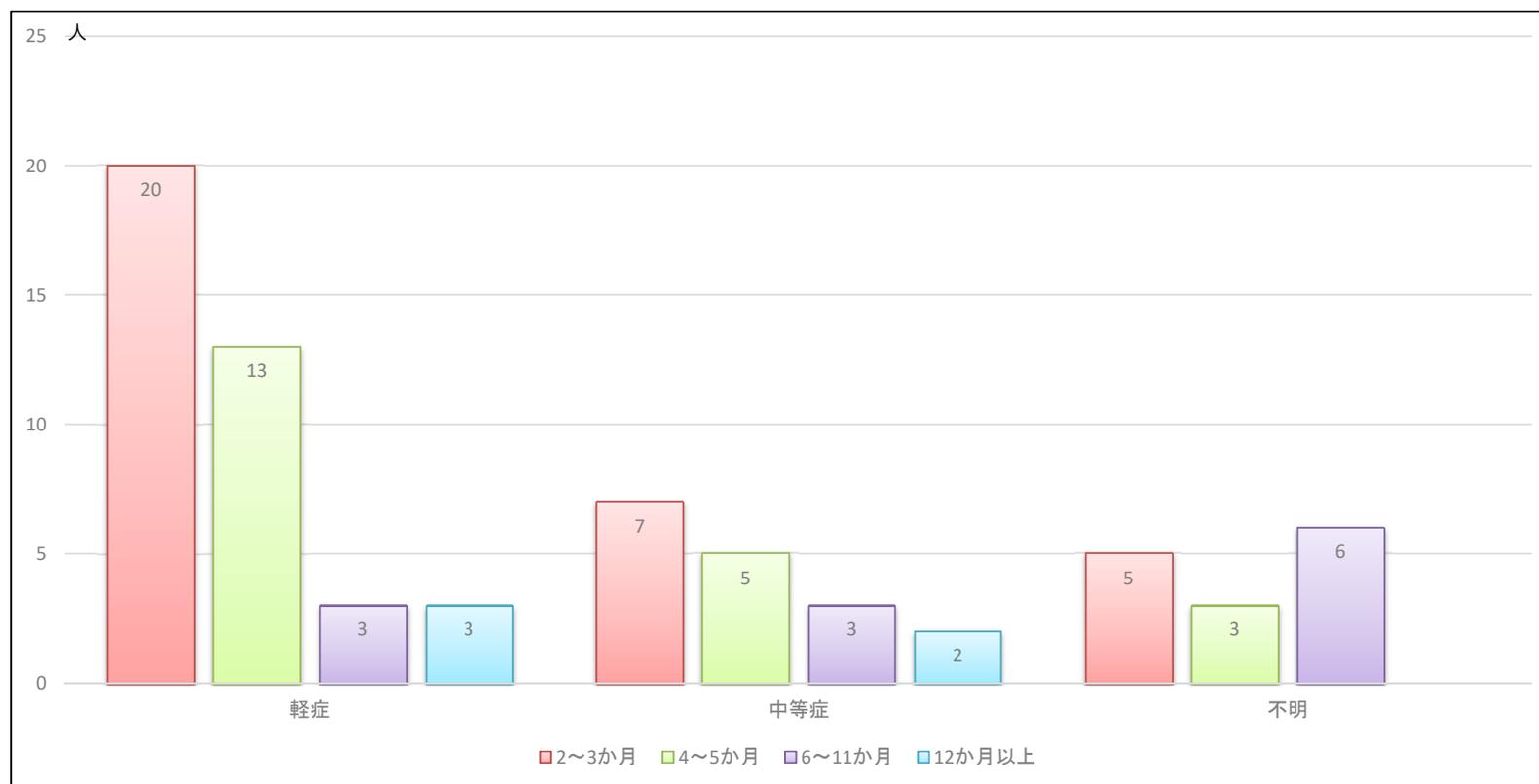
9 年代別の罹患後症状の継続期間について

- ・40代では2～3か月が多く、70代では4～5か月が多くなっている。
- ・10代、80代、90歳以上を除く年代群で6か月以上にわたって症状が継続する方がみられ、年齢に関わらず症状が長期化する可能性がある。



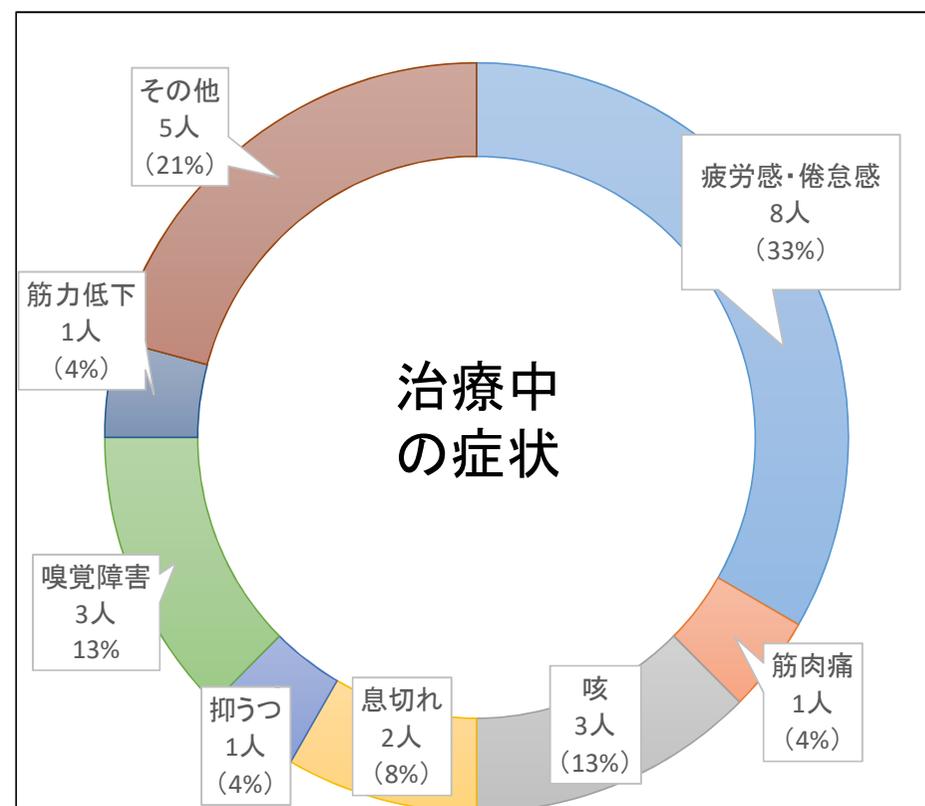
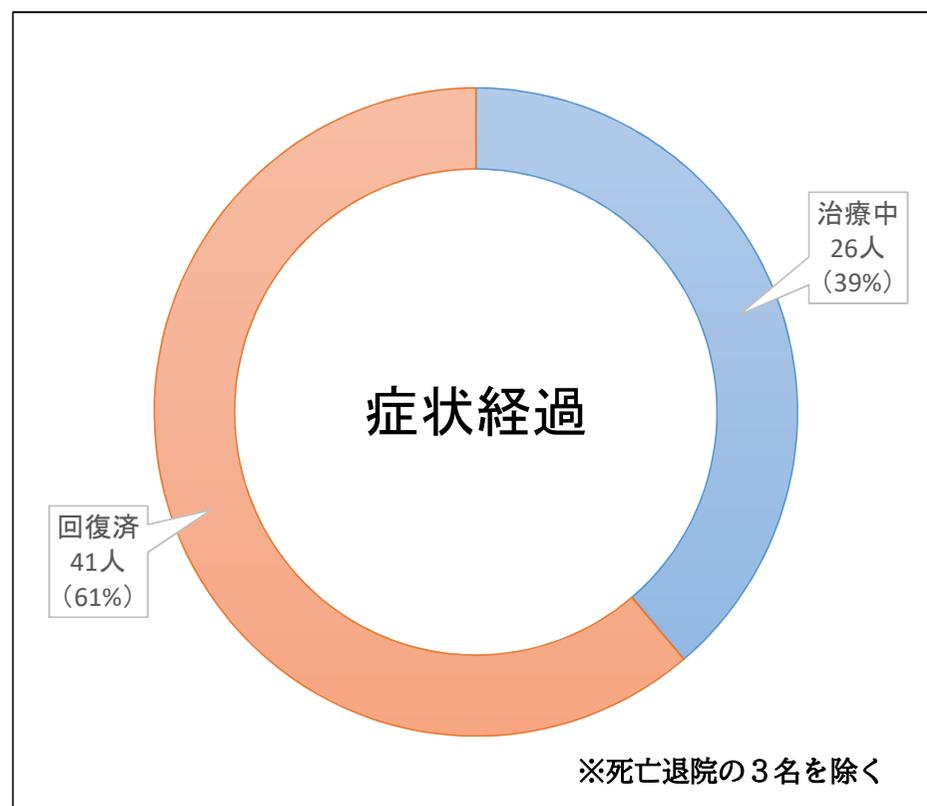
10 感染時の症状と症状継続期間について

- ・感染時症状と継続期間の相関はみられない。
- ・軽症患者群の6名(15%)は6か月以上症状が継続しており、感染時症状の程度によらず罹患後症状が長引く可能性がある。



11 治療中の患者について(1)

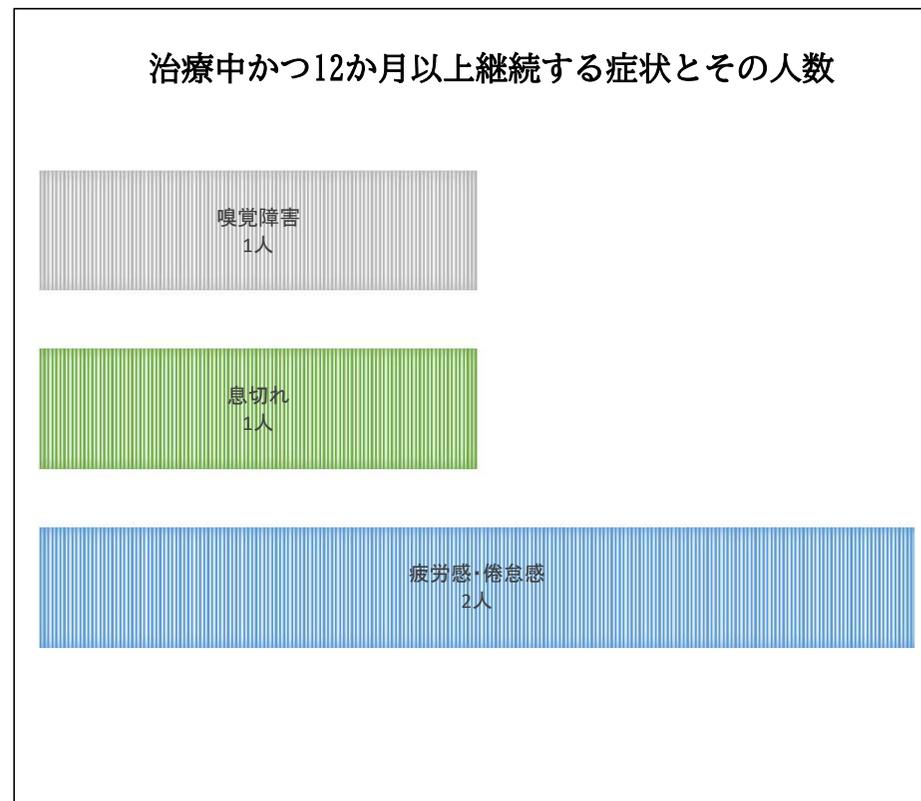
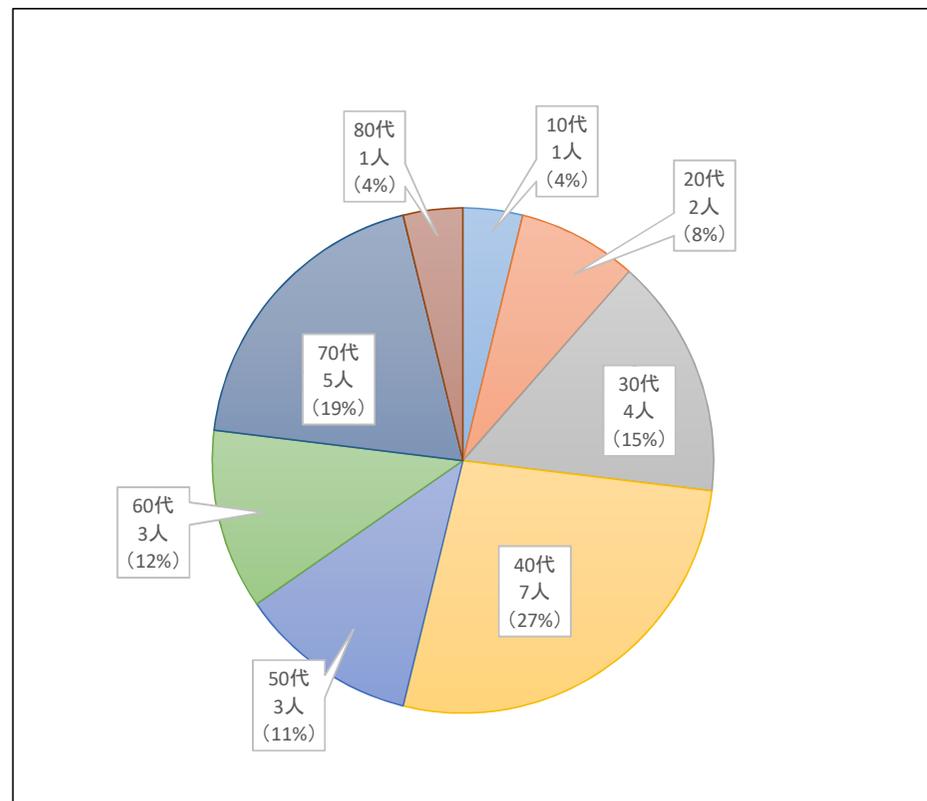
- ・現在も治療中の患者は70人のうち26人であり、39%が症状が継続している。
- ・治療中の症状では疲労感・倦怠感、咳、嗅覚障害が多くなっている。



11 治療中の患者について(2)

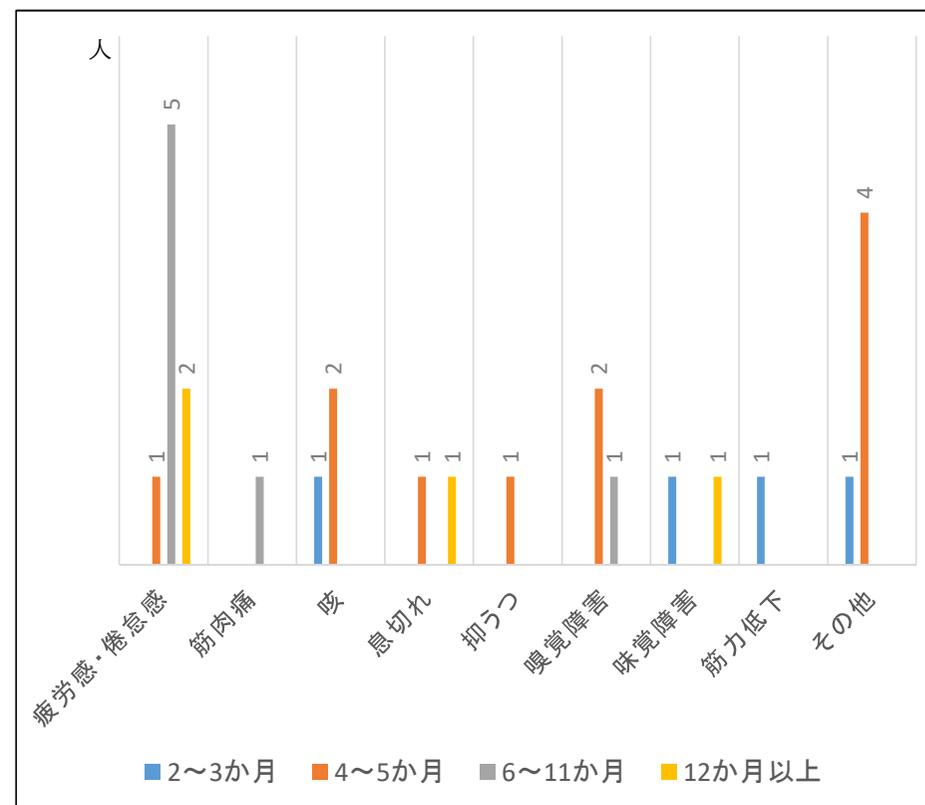
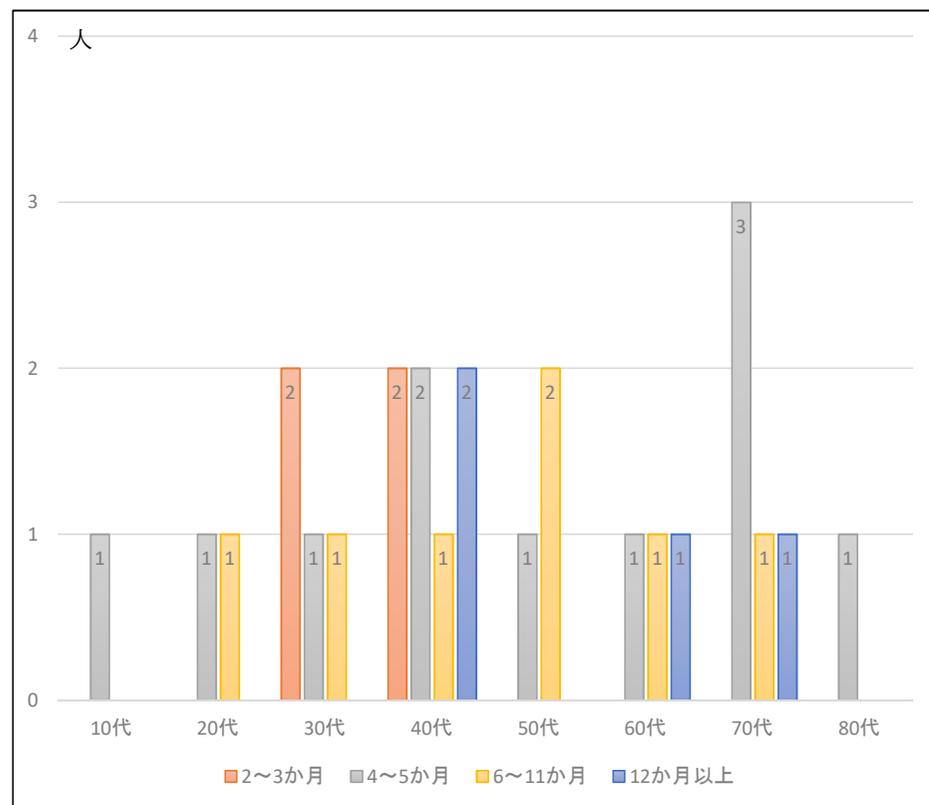
・治療中の患者の年代は40代、70代が多くなっており、いずれの年代にも治療中の患者がみられる。

また、治療中で12か月以上継続している患者は4人であり、嗅覚障害、息切れがそれぞれ1人、疲労感・倦怠感が2人であった。



11 治療中の患者について(3)

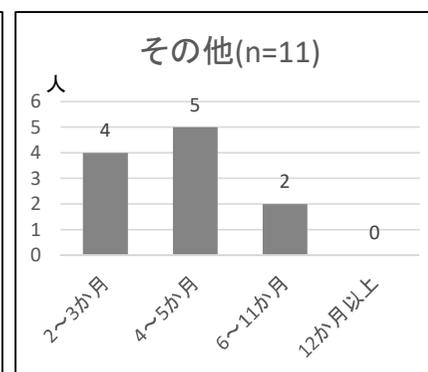
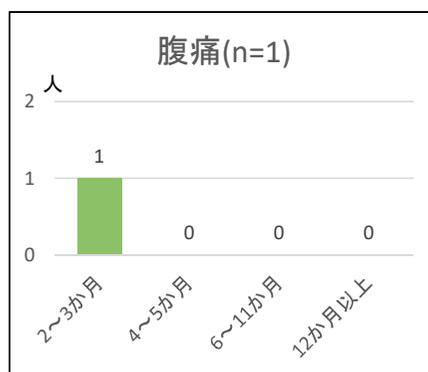
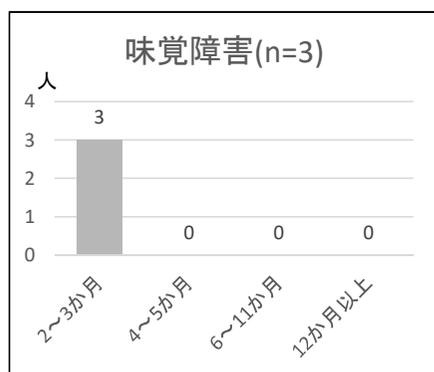
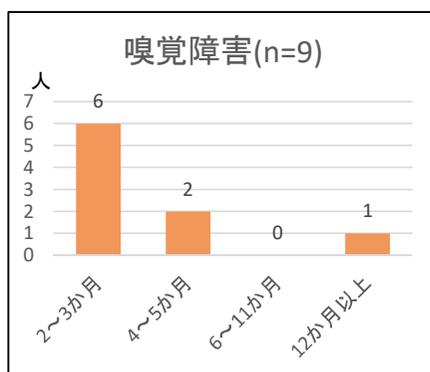
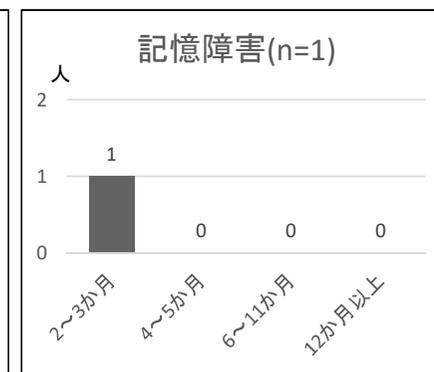
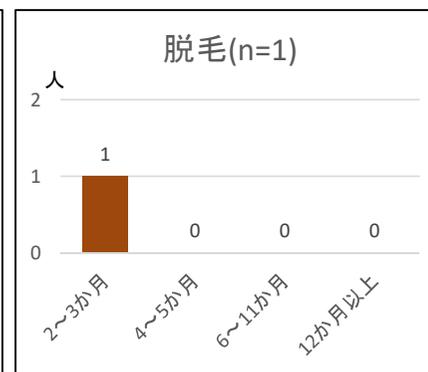
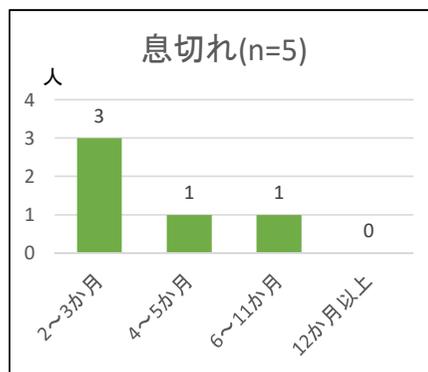
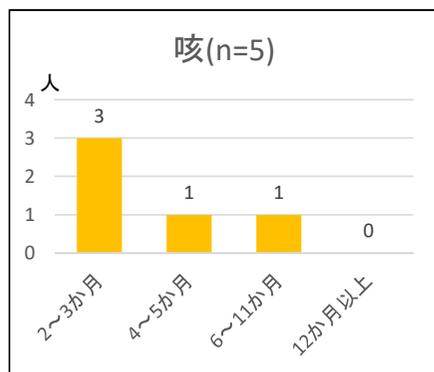
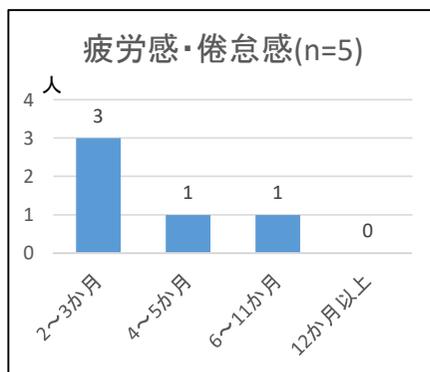
- ・治療中の患者の年代と症状の継続期間では、2～3か月症状が継続している患者は30代と40代のみであり、また12か月以上症状が継続している患者は40代以上にのみ見られた。
- ・治療中の症状別の継続期間では、疲労感・倦怠感が長期化している傾向がみられた。



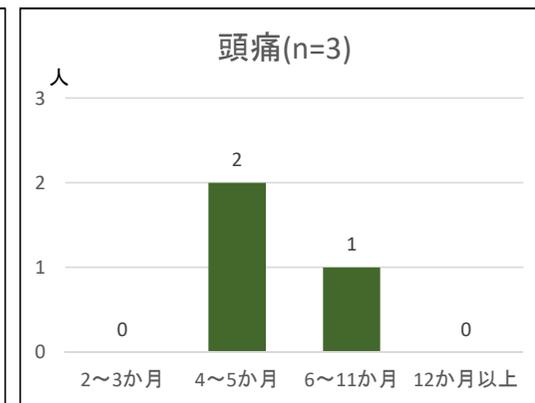
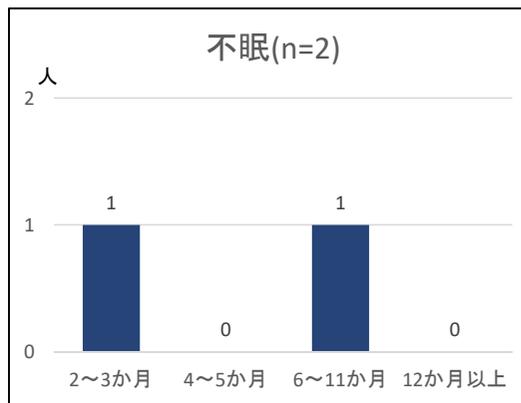
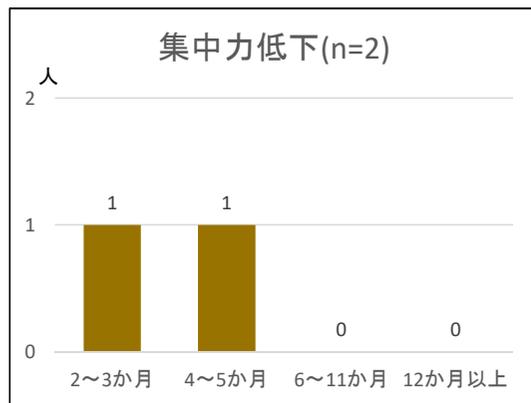
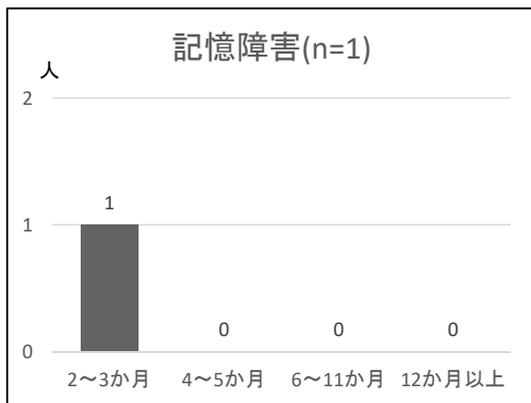
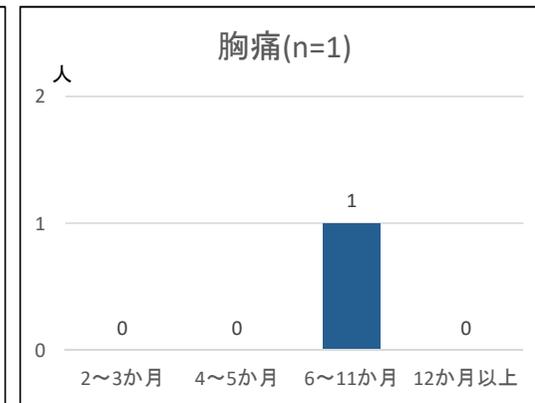
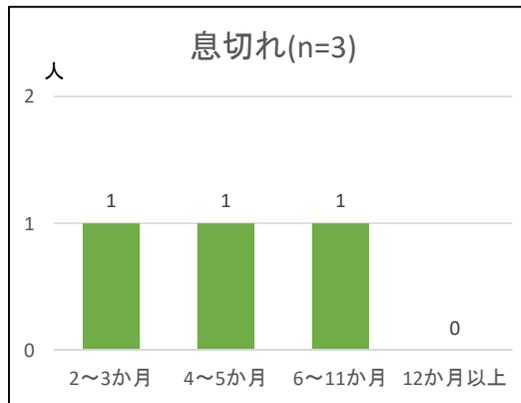
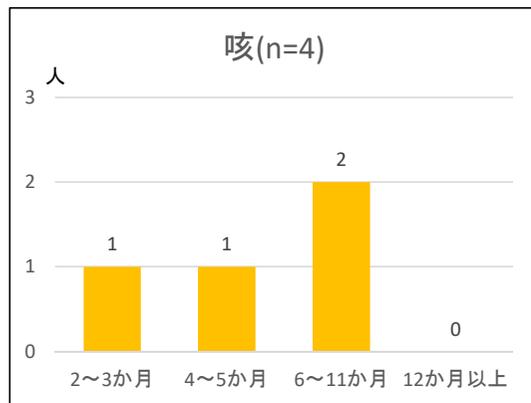
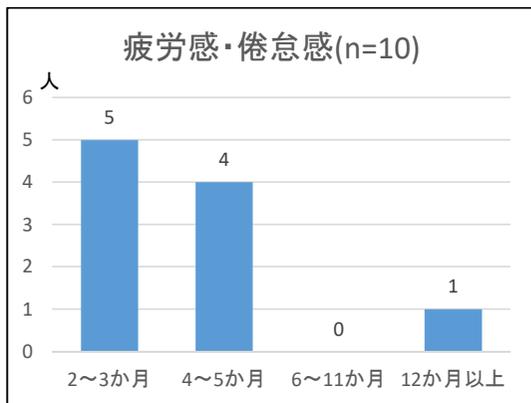
12 回復済みの患者について(主症状)

・すでに回復している方の主症状で最も多い症状は嗅覚障害であった。次いで、疲労感・倦怠感、咳、息切れが5人と同数であった。

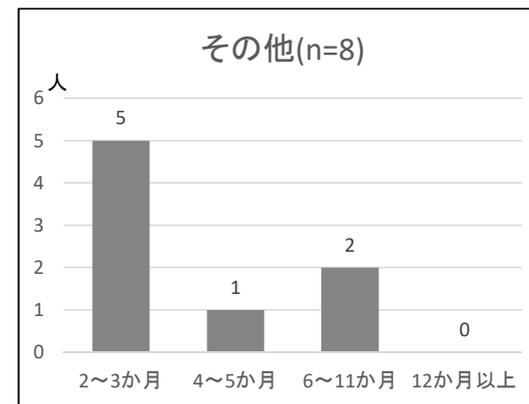
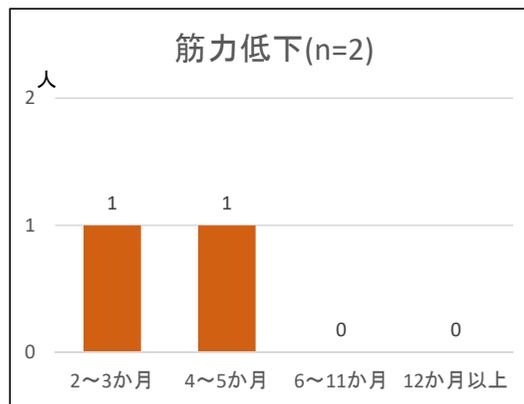
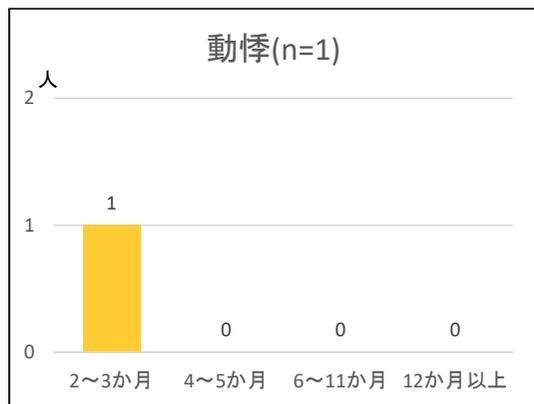
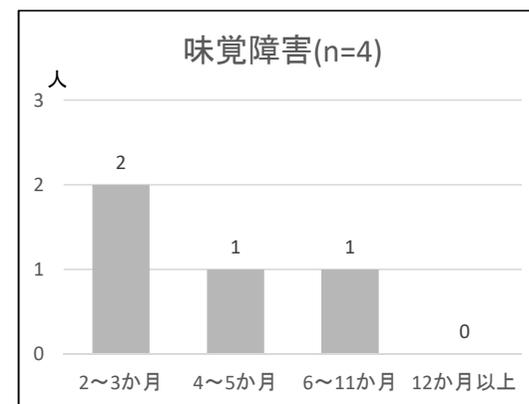
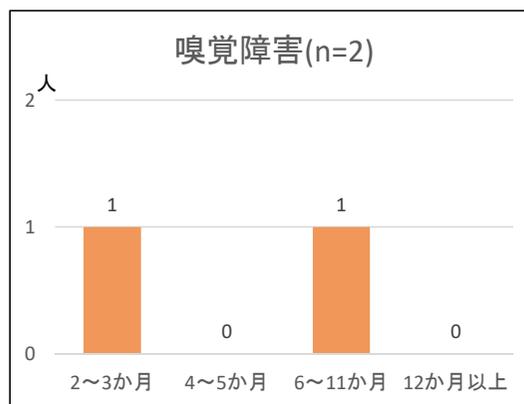
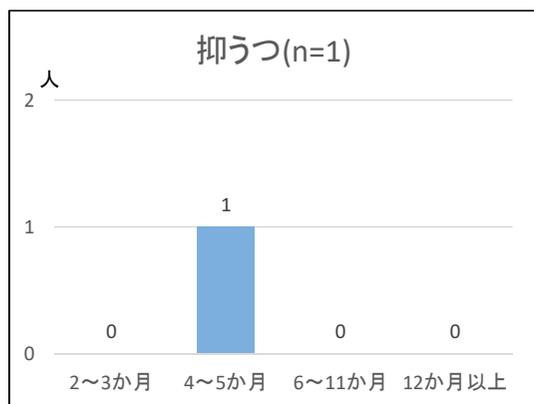
・多くが1年以内に回復しているが、嗅覚障害の1例は12か月以上症状が継続していた。



13 回復済みの患者について(副症状)

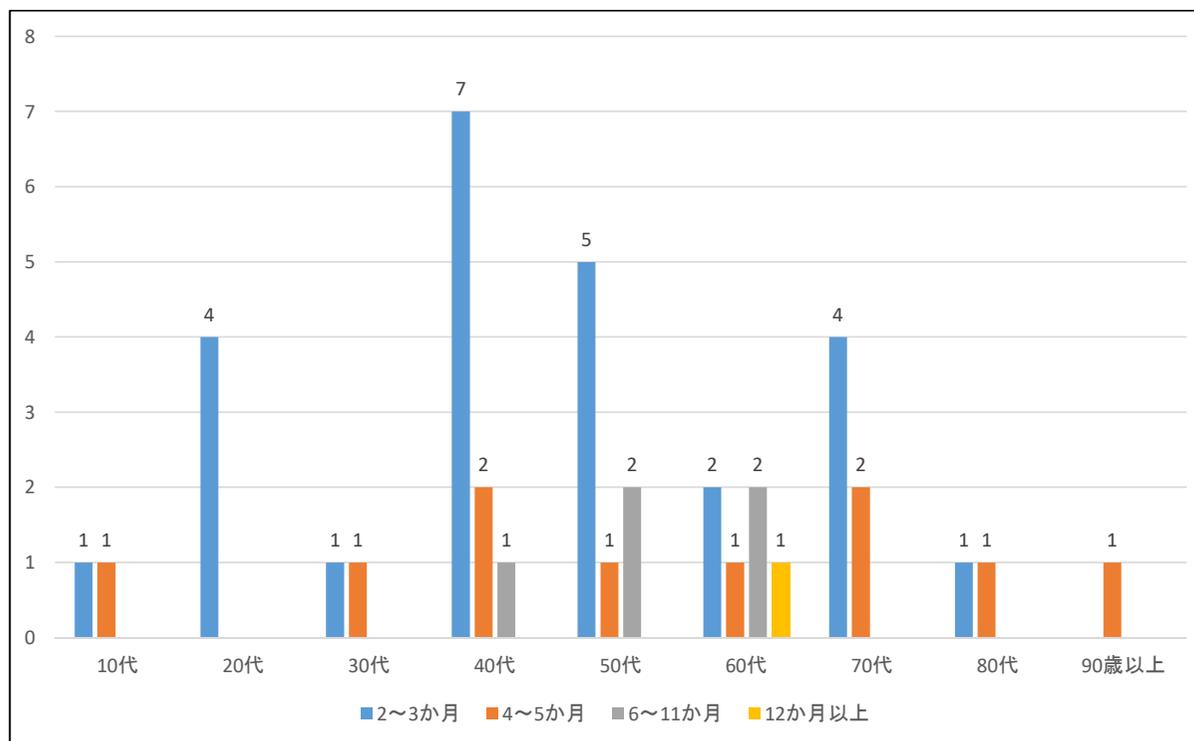


13 回復済みの患者について(副症状)



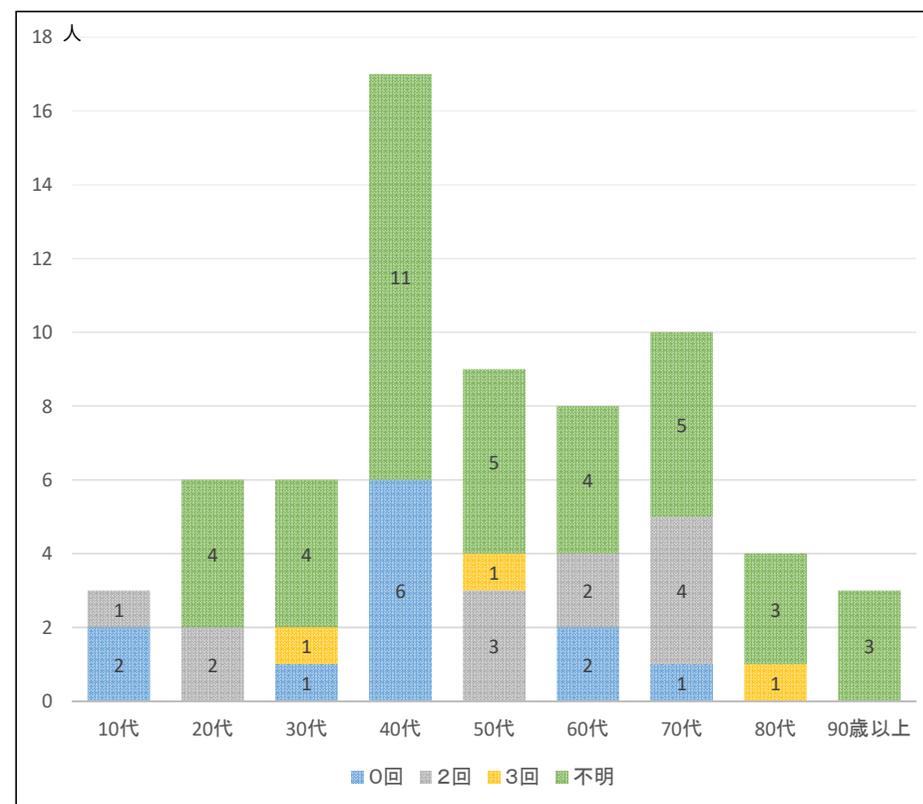
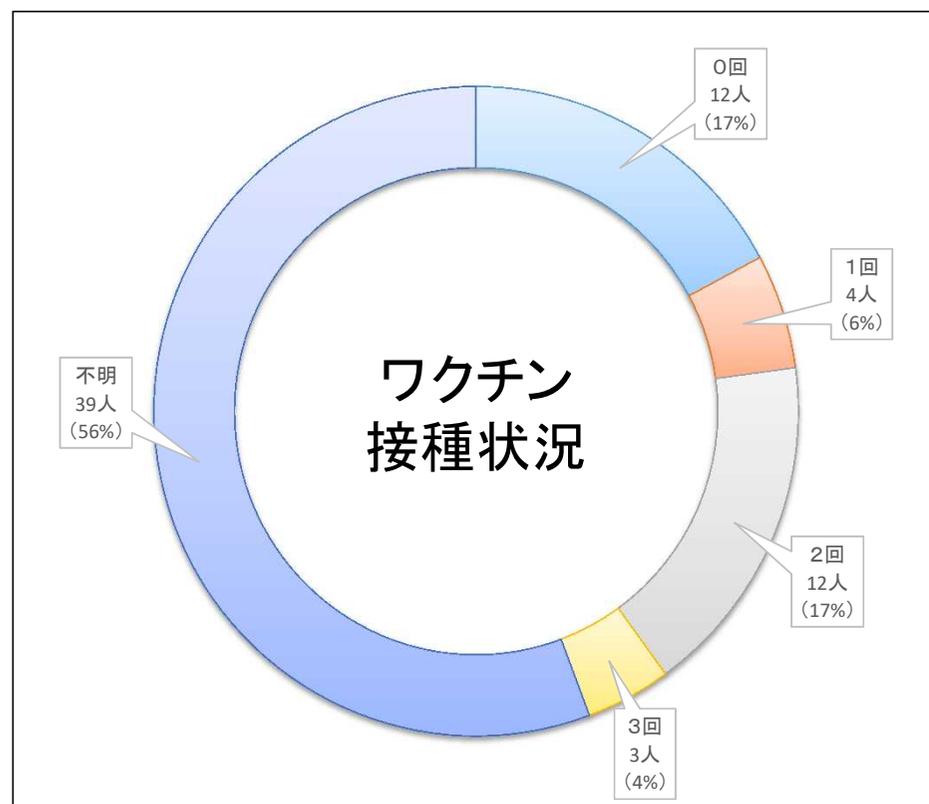
12 回復済みの患者について

- ・60代の患者1人は12か月以上症状が継続していた。
- ・年代に関わらず回復までの期間は短い傾向にあった。



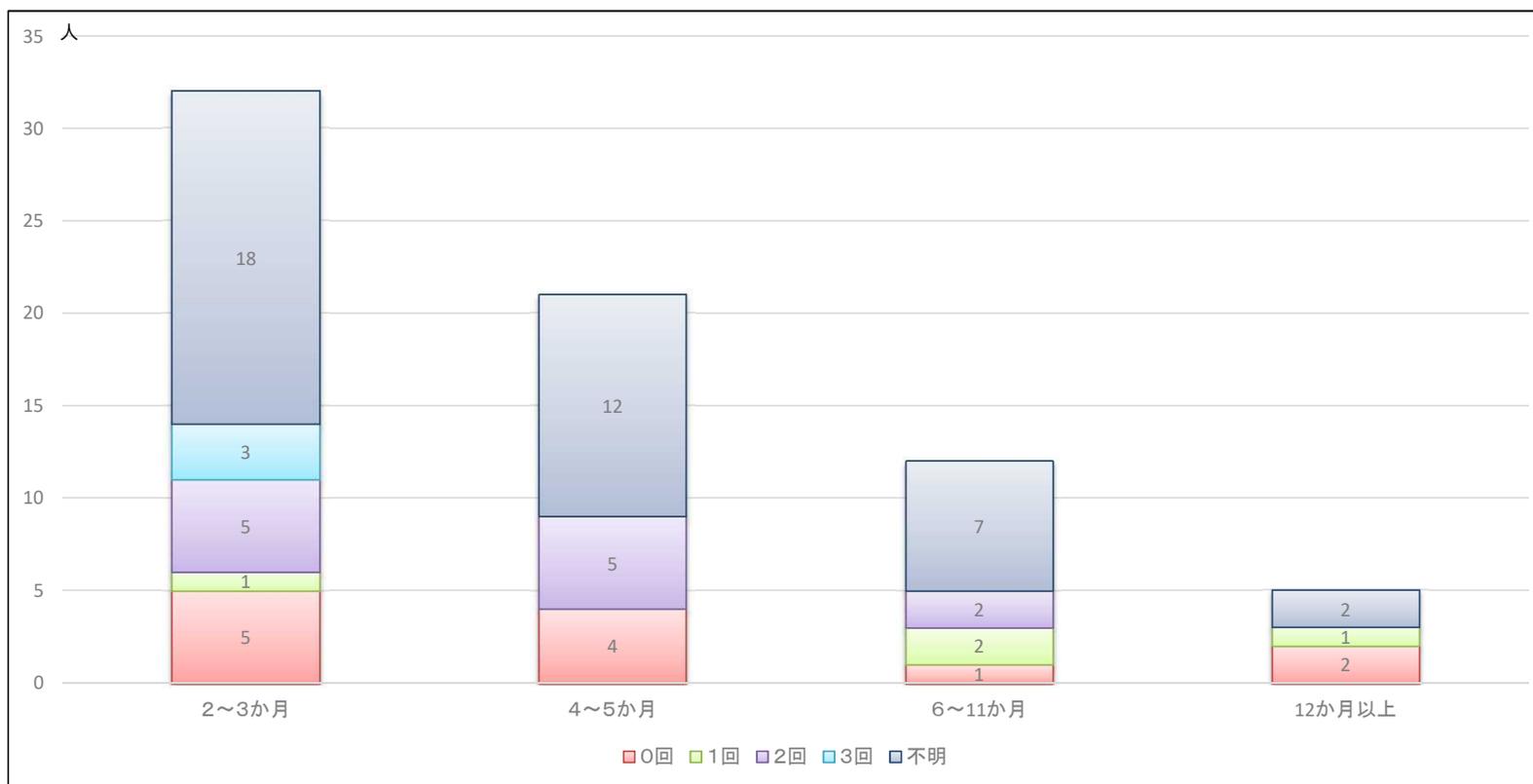
12 ワクチン接種と年代について

- ・ワクチン接種歴を確認できない方が56%を占めた。
- ・40代では6人(35%)がワクチン未接種であった。



13 ワクチン接種と症状継続期間について

- ・ワクチン3回接種を完了した方は症状継続期間が2～3か月の群に集中している。
- ・ただし、ワクチンに関する集計は接種日が不明であるため評価が困難であった。



調査結果について

- ・罹患後症状を有する患者の性別に偏りはみられない。年代別では40代から70代が約7割を占め、現役世代となる20代から50代が57%を占めている。
- ・複数の症状を有する方が全体の53%を占めており、約4割の患者が疲労感・倦怠感の症状を呈していた。
- ・新型コロナウイルス感染症罹患時の症状の程度(軽症・中等症)に関わらず、罹患後症状が発生している。性別による症状の偏りはみられない。
- ・症状の継続期間について、全体の24%が6か月以上罹患後症状が継続している。
- ・すでに回復済みの患者は多くが2~3か月で症状が改善していた。
- ・罹患後症状を有する方(ワクチン接種歴不明を除く。)のうち、39%がワクチンを接種していなかった。

新型コロナウイルス感染症の罹患後症状に悩む方の診療をしている医療機関の選定及び公表等について

【令和5年2月20日 新型コロナウイルス感染症対策推進本部通知抜粋】

- ・罹患後症状については、一般医療の中で診療できるものが少なくはないことから、まずは、コロナ罹患後症状で悩む方がかかりつけ医等や地域の医療機関を受診できるようにすることが重要
- ・このため、各都道府県においてコロナ罹患後症状に悩む方の診療をしている医療機関を選定し、ウェブサイト等で医療機関リストを公表する

選定対象の医療機関

- ・コロナ罹患後症状に悩む方の診療をしている
- ・コロナ罹患後症状によくみられる各症状のうち、診療をしている症状を明確にできる
- ・コロナ罹患後症状に悩む方の診療をしている医療機関として医療機関名、住所、連絡先、コロナ罹患後症状に悩む方の診療をしている診療科名等の公表が可能

通知を受けた今後の対応

1. 県内の医療機関を対象に次の項目等を調査
 - ・コロナ罹患後症状について相談・診療をしているか
 - ・罹患後症状に悩む方の診療をしている医療機関として、医療機関名を公表しても良いか
2. 診療をしている医療機関を県ホームページで公表